

県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム

1 本プログラムの理念・使命・特性

(1) 理念【整備基準 1】

- 1) 本プログラムは、兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な急性期病院である県立はりま姫路総合医療センターを基幹施設として、兵庫県播磨姫路医療圏・近隣医療圏にある連携施設での内科専門研修を経て、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練し、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として兵庫県全域を支える内科専門医の育成を行います。
- 2) 臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設2年間+連携・特別連携施設1年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養を有し、様々な医療環境で全人的な内科医療を実践する能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学びます。その際、單なる繰り返しではなく、疾患や病態によって、特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験もできることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導・評価を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

(2) 使命【整備基準 2】

- 1) 兵庫県播磨姫路医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて、地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

- 4) 将來の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

(3) 特性

- 1) 本プログラムは、兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な急性期病院である県立はりま姫路総合医療センターを基幹施設として、兵庫県播磨姫路医療圏、近隣医療圏で内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、地域の実情に合わせて多様な環境下で活躍できるように、実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設1~2年間+連携施設1~2年間の3年間です。
- 2) 県立はりま姫路総合医療センター内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 3) 基幹施設である県立はりま姫路総合医療センターは、兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、救命救急センターを併設していることにより、数多くの救急疾患を経験できます。さらに高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
- 4) 基幹施設である県立はりま姫路総合医療センターでの2年間（専攻医2年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で45疾患群、120症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（以降、J-OSLERと表記）に登録できます。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます。
- 5) 県立はりま姫路総合医療センター内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修3年間のうちの1~2年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- 6) 基幹施設である県立はりま姫路総合医療センターでの1~2年間と専門研修施設群での1~2年間（専攻医2年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で56疾患群、120症例以上を経験し、J-OSLERに登録できます。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群、200症例以上の経験を目指します（別表1「県立はりま姫路総合医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

(4) 専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。

本プログラムの成果とは、必要に応じて多様な環境で活躍できる内科専門医を多く輩出することです。

内科専門医が活躍する場とその役割として、以下のものが想定されます。

- 1) 病院医療：内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、身体・精神の統合的・機能的視野から診断・治療を行う能力を備え実践する。内科疾患全般の初期対応とコモンディジーズの診断と治療を行うことに加え、内科系サブスペシャリストとして診療する際にも、臓器横断的な視点を持ち全人的医療を実践する。
- 2) 地域医療：かかりつけ医として地域において常に患者と接し、内科系の慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を任務とする全人的な内科診療を実践する。
- 3) 救急医療：内科系急性・救急疾患に対するトリアージを含め、地域での内科系の急性・救急疾患への迅速かつ適切な診療を実践する。

県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、兵庫県播磨姫路医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などの研究を開始する準備を整える経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

2 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)~7)により、県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 15 名とします。

- 1) 県立はりま姫路総合医療センター内科専攻医は現在 3 学年併せて 21 名で 1 学年 3~8 名の実績があります。
- 2) 剖検体数は 2022 年度 5 体、2023 年度 7 体、2024 年度 2 体です。

表 県立はりま姫路総合医療センター診療科別診療実績

2024 年度実績	入院患者数 (人/年)	外来患者延数 (延人数/年)
総合内科	7,962	6,196
循環器内科	32,505	34,285
脳神経内科	13,026	12,732
糖尿病・内分泌内科	2,366	18,252
消化器内科	20,008	24,246
腎臓内科	5,103	8,678

呼吸器内科	10,435	9,647
腫瘍・血液内科	4,171	8,933
膠原病リウマチ内科	3,385	9,591
感染症内科	58	2,478
緩和ケア内科	5,966	362

- 3) 1学年15名に対し十分な症例を経験可能です。
- 4) 総合内科、消化器、循環器、呼吸器、血液、神経内科、老年病、腎臓、肝臓、糖尿病、内分泌代謝科、リウマチ、感染症領域の専門医が少なくとも1名以上在籍しています（P.18 「県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修施設群」参照）。
- 5) 1学年15名までの専攻医であれば、専攻医2年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた45疾患群、80症例以上の診療経験と29病歴要約の作成は達成可能です。
- 6) 専攻医2年目に研修する連携施設・特別連携施設には、高次機能・専門病院2施設、地域基幹病院22施設および地域医療密着型病院6施設、計31施設あり、専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です。
- 7) 専攻医3年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも56疾患群、120症例以上の診療経験は達成可能です。

3 専門知識・専門技能とは

(1) 専門知識【整備基準4】 [「内科研修カリキュラム項目表」参照]

専門知識の範囲（分野）は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病及び類縁疾患」、「感染症」ならびに「救急」で構成されます。

研修カリキュラムでは、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療法」、「疾患」などを目標（到達レベル）とします。

(2) 専門技能【整備基準5】 [「技術・技能評価手帳」参照]

内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力などが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4 専門知識・専門技能の習得計画

(1) 到達目標【整備基準8～10】

(P.75 別表1「県立はりま姫路総合医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照)

主担当医として「カリキュラム」に定める全70疾患群を経験し、200症例以上経験することを目指します。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

○専門研修（専攻医）1年：

- ・症例：専攻医はカリキュラムに定められた70疾患群のうち、少なくとも20疾患群、40症例以上を経験し、J-OSLERに登録することを目標とします。各専攻医の症例指導医は、登録された症例の評価と承認を行います。
- ・技能：研修中の疾患群に対する診断と治療で必要な身体診察、検査所見の解釈、および治療方針の決定を指導医、Subspecialty上級医とともに行うことができます。
- ・態度：専攻医は、自身の自己評価と指導医およびメディカルスタッフによる360度評価（専攻医評価と多職種評価）を複数回受け、態度の評価を行い、担当指導医がフィードバックを提供します。

○専門研修（専攻医）2年：

- ・症例：専攻医はカリキュラムに定められた70疾患群のうち、通算で45疾患群、80症例以上の経験をし、J-OSLERに登録します。各専攻医の症例指導医は、登録された症例の評価と承認を行います。また、専攻医は、専門研修修了に必要な病歴要約（29症例以上）をすべてJ-OSLERに登録します。
- ・技能：専攻医は、研修中の疾患群に対する診断と治療に必要な身体診察、検査所見の解釈、および治療方針の決定を指導医、Subspecialty上級医の監督下で行うことができます。
- ・態度：専攻医は自身の自己評価と、指導医およびメディカルスタッフによる360度評価を複数回受け、態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修（専攻医）3年：

- ・症例：専攻医は主担当医としてカリキュラムに定める全70疾患群を経験し、200症例以上（うち外来症例は最大20症例まで）を目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計120症例以上（外来症例は1割まで含むことができます）を経験し、J-OSLERに登録しなければなりません。症例指導医は、専攻医として適切な経験と知識の修得ができているかどうかを確認します。不十分と考えた場合にはフィードバックと再指導を行います。また、既に専門研修2年次までに登録を終えた病歴要約は、所属するプログラムにおける一次評価を受け、その後、日本内科学会の病歴要約二次評価査読委員による査読を受け、受理されるまで改訂を重ねます。
- ・査読者の評価を受け、形成的により良いものへ改訂を促します。ただし、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理が一切認められることもあります。
- ・技能：専攻医は内科領域全般にわたる診断と治療で必要な身体診察、検査所見の解釈、および治療方針の決定を自立して行うことができます。
- ・態度：専攻医は自身の自己評価と、指導医およびメディカルスタッフによる360度評価を複数回受け、態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 120 症例以上の経験のすべてを必要とします。

県立はりま姫路総合医療センター内科施設群専門研修では、「[研修カリキュラム項目表](#)」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2 年間 + 連携・特別連携施設 1 年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

(2) 臨床現場での学習【整備基準 13】

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記①～⑥参照）。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

- ① 内科専攻医は、担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
- ② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
- ③ 総合内科外来（初診を含む）と Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を少なくとも週 1 回、1 年以上担当医として経験を積みます。
- ④ 救命救急センターで内科領域の救急診療の経験を積みます。
- ⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます。
- ⑥ 要に応じて、Subspecialty 診療科検査を担当します。

(3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1) 内科領域の救急対応、2) 最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3) 標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4) 医療倫理、医療安全、感染対策、臨床研究や利益相反に関する事項、5) 専攻医の指導・評価方法に関する事項などは、以下の方法で研鑽します。

- ① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会
- ② 医療倫理・医療安全・感染対策に関する講習会（基幹施設 2024 年度実績 5 回）
※内科専攻医は年に 2 回以上受講します。
- ③ CPC（基幹施設 2023 年度実績 7 回、2024 年度実績 2 回）
- ④ 研修施設群合同カンファレンス（年 3 回開催予定）

- ⑤ 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：姫路市内科専門研修 Group カンファレンス、はり姫健康講座、地域連携カンファレンス、高機能シミュレータ医療研修講座、地域の総合医と専門医を繋ぐプロジェクトなど）
- ⑥ JMECC 受講（基幹施設：2024 年度開催実績 2 回：受講者 10 名）
 - ※内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します。
- ⑦ 内科系学術集会（下記「7。学術活動に関する研修計画」参照）
- ⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会
- など

(3)自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し、意味を説明できる）に分類、技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる）、B（経験は少数例ですが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる）、C（経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに、症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した）、B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した）、C（レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています。（「研修カリキュラム項目表」参照）自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習します。

- ① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
- ② 日本内科学会雑誌にある MCQ
- ③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題
- など

(4)研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41】

- J-OSLER を用いて、以下を web ベースで日時を含めて記録します。
- ・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 120 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
 - ・専攻医による逆評価を入力して記録します。
 - ・また、既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、所属するプログラムにおける一次評価を受け、その後、日本内科学会の病歴要約二次評価査読委員による査読を受け、受理されるまで改訂を重ねます。
 - ・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
 - ・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

5 プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13、14】

県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載しました（P. 18 「県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修施設群」参照）。

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である県立はりま姫路総合医療センター臨床研修センターが把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促します。

6 リサーチマインドの養成計画【整備基準 6、12、30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。

県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても、

- ① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
- ② 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う（EBM; evidencebasedmedicine）。
- ③ 最新の知識、技能を常にアップデートする（生涯学習）。
- ④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。
- ⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。併せて、

- ① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
- ② 後輩専攻医の指導を行う。
- ③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。

を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

7 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても、

- ① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）。
- ※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します。
- ② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
 - ③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。
 - ④ 内科学に通じる基礎研究を行います。

を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者 2 件以上行います。

なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

8 コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。

県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても指導医、Subspecialty 上級医とともに下記 1) ~10) について積極的に研鑽する機会を与えます。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である県立

はりま姫路総合医療センター臨床研修センターが把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。

- ① 患者とのコミュニケーション能力
 - ② 患者中心の医療の実践
 - ③ 患者から学ぶ姿勢
 - ④ 自己省察の姿勢
 - ⑤ 医の倫理への配慮
 - ⑥ 医療安全への配慮
 - ⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
 - ⑧ 地域医療保健活動への参画
 - ⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
 - ⑩ 後輩医師への指導
- ※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけではなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

9 地域医療における施設群の役割【整備基準 11、28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修施設群研修施設は兵庫県播磨姫路医療圏、近隣医療圏から構成されています。

県立はりま姫路総合医療センターは、兵庫県播磨医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できる目的に、高次機能・専門病院である加古川中央市民病院、神戸大学医学部附属病院、地域基幹病院である姫路赤十字病院、国立病院機構姫路医療センター、姫路聖マリア病院、ツカザキ病院、赤穂市民病院、県立淡路医療センター、北播磨総合医療センター、明石医療センター、甲南医療センター、神戸医療センター、西神戸医療センター、市立西脇病院、市立加西病院、公立宍粟総合病院、県立加古川医療センター、公立豊岡病院、京都第一赤十字病院、神戸市立医療センター西市民病院、千船病院、淀川キリスト教病院、兵庫中央病院、県立丹波医療センター、神鋼記念病院及び地域医療密着型病院である姫路中央病院、綱島会厚生病院、井野病院、中谷病院、入江病院、たつの市民病院にて構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院では、県立はりま姫路総合医療センターと異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修施設群(P.18)は、兵庫県播磨姫路医療圏、近隣医療圏で構成しています。特別連携施設であるたつの市民病院での研修は、県立はりま姫路総合医療センターのプログラム管理委員会と研修委員会とが管理と指導の責任を行います。県立はりま姫路総合医療センターの担当指導医が、たつの市民病院の上級医とともに、専攻医の研修指導にあたり、指導の質を保ちます。

10 地域医療に関する研修計画【整備基準 28、29】

県立はりま姫路総合医療センター内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

県立はりま姫路総合医療センター内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

11 内科専門研修（モデル）【整備基準 16】

卒後年	1	2	3	4	5	6
医師国家試験合格	臨床研修	内科専門研修 (並行研修)				内科・総合内科 内科・循環器内科 内科・脳神経内科 内科・糖尿病・内分泌内科 内科・消化器内科 内科・腎臓内科 内科・呼吸器内科 内科・腫瘍・血液内科 内科・膠原病リウマチ内科 内科・感染症内科 内科・緩和ケア内科 内科・救急科
		連携施設での研修	病歴提出	筆記試験		

モデルローテーション

1年目

県立はりま姫路総合医療センター

総合内科 0.5 年

希望の診療科 0.5 年

2年目

連携施設 1 年

医療資源が限られている過疎地域に位置し地域包括ケア病床を有する地域基幹病院
又は地域医療密着型病院 0.5 年を含む

3年目

県立はりま姫路総合医療センター 1 年

希望の診療科中心

基幹施設である県立はりま姫路総合医療センター内科で、専門研修（専攻医）1年目、3年目に2年間の専門研修を行います。

総合内科的視点の基礎を修得する目的で、専門研修（専攻医）1年目の少なくとも 0.5 年間は、総合内科で研修します。

専門研修（専攻医）2年目の研修施設は希望・将来像、研修達成度などを基に、調整し決定します。希望連携施設の選択にあたり、立場や地域における役割の異なる医療機関での研修をより推進する目的で、医療資源が限られている過疎地域の地域基幹病院で地域包括ケア病床を有する公立完栗総合病院、赤穂市民病院、市立西脇病院、県立丹波医療センター、市立加西病院、および地域医療密着型病院である姫路中央病院、綱島会厚生病院、井野病院、中谷病院、入江病院、たつの市民病院の内、いずれかの施設で少なくとも0.5年間の研修を選択します。

なお、研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）。

12 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17、19～22】

(1) 県立はりま姫路総合医療センター臨床研修センターの役割

- ・県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を設置します。
- ・県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が臨床研修期間などで経験した疾患について J-OSLER を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
- ・3か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による J-OSLER への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- ・年に複数回（8月と2月、必要に応じて臨時に）、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は J-OSLER を通じて集計され、1か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促します。
- ・臨床研修センターは、メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8月と2月、必要に応じて臨時に）行います。担当指導医、Subspecialty 上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士、事務員などから、接点の多い職員 5 人を指名し、評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、臨床研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、J-OSLER に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果は J-OSLER を通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行います。
- ・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビギット（施設実地調査）に対応します。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

- ・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会により決定されます。
- ・専攻医は J-OSLER にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム

上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。

- ・専攻医は、1年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める70疾患群のうち20疾患群、40症例以上の経験と登録を行うようにします。2年目専門研修終了時に70疾患群のうち45疾患群、80症例以上の経験と登録を行うようにします。3年目専門研修終了時には70疾患群のうち56疾患群、120症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。
- ・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLERでの専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医はSubspecialtyの上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医とSubspecialtyの上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- ・担当指導医はSubspecialty上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- ・専攻医は、専門研修（専攻医）2年修了時までに29症例の病歴要約を順次作成し、J-OSLERに登録します。担当指導医は専攻医が合計29症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う必要があります。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修（専攻医）3年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。
- ・評価の責任者年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

（4）修了判定基準【整備基準53】

- 1) 担当指導医は、J-OSLERを用いて研修内容を評価し、以下i)～vi)の修了を確認します。
 - i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70疾患群を経験し、計200症例以上（外来症例は20症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容をJ-OSLERに登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計120症例以上の症例（外来症例は登録症例の1割まで含むことができます）を経験し、登録しなければなりません（P.75表1「県立はりま姫路総合医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。
 - ii) 29病歴要約の査読後の受理（アクセプト）
 - iii) 所定の2編の学会発表または論文発表
 - iv) JMECC受講
 - v) プログラムで定める講習会受講
 - vi) J-OSLERを用いてメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参考し、社会人である医師としての適性
- 2) 県立はりま姫路総合医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約1か月前に県立はりま姫路総合医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定

を行います。

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、J-OSLERを用います。なお、「県立はりま姫路総合医療センター内科専攻医研修マニュアル」【整備基準44】（P.65）と「県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準45】（P.72）と別に示します。

13 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準34、35、37～39】

（P.64 「県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

(1) 県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

- 1) 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、プログラム統括責任者（総合内科専門医かつ指導医）、事務局代表者、内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者および連携施設担当委員で構成されます。県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修管理委員会の事務局を、県立はりま姫路総合医療センター臨床研修センターにおきます。
- 2) 県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設とともに内科専門研修委員会を設置します。委員長1名（指導医）は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年12月と3月に開催する県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会の委員として出席します。
- 3) 基幹施設、連携施設とともに、毎年4月30日までに、県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います。
 - ① 前年度の診療実績
 - a) 病院病床数、b) 内科病床数、c) 内科診療科数、d) 1か月あたり内科外来患者数、e) 1か月あたり内科入院患者数、f) 割検数
 - ② 専門研修指導医数および専攻医数
 - a) 前年度の専攻医の指導実績、b) 今年度の指導医数/総合内科専門医数、c) 今年度の専攻医数、d) 次年度の専攻医受け入れ可能人数
 - ③ 前年度の学術活動
学会発表、b) 論文発表
 - ④ 施設状況
施設区分、b) 指導可能領域、c) 内科カンファレンス、d) 他科との合同カンファレンス、e) 抄読会、f) 机、g) 図書館、h) 文献検索システム、i) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、j) JMECCの開催。
 - ⑤ Subspecialty 領域の専門医数
日本消化器病学会消化器専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、日本内分泌学会専門医数、日本糖尿病学会専門医数、日本腎臓病学会専門医数、日本呼吸器学会呼吸器専門医数、日本血液学会血液専門医数、日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医（内科）数、日本リウマチ学会専門医数、日本感染症学会専門医数、日本救急医学会救急科専門医数

14 プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18、43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します。

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修（FD）の実施記録として、J-OSLER を用います。

15 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

専門研修（専攻医）1年目、3年目は基幹施設である県立はりま姫路総合医療センターの就業環境に、専門研修（専攻医）2年目は連携施設もしくは特別連携施設の就業環境に基づき、就業します（P. 18 「県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修施設群」参照）。

16 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

- 1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価は、J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。
- 2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス専門研修施設の内科専門研修委員会、県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。
 - ① 即時改善を要する事項
 - ② 年度内に改善を要する事項
 - ③ 数年をかけて改善を要する事項
 - ④ 内科領域全体で改善を要する事項
 - ⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

- ・担当指導医、施設の内科研修委員会、県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラムを評価します。
- ・担当指導医、各施設の内科研修委員会、県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当

指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし、自律的な改善に役立てます。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てます。

3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

県立はりま姫路総合医療センター臨床研修センターと県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会は、県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に、必要に応じて県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラムの改良を行います。

県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

17 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は、毎年 website での公表や説明会などを行い、内科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は、県立はりま姫路総合医療センター総合採用サイトの県立はりま姫路総合医療センター専攻医募集要項（県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します。書類選考および面接を行い、県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知します。

（問い合わせ先）県立はりま姫路総合医療センター 診療サポート課 臨床研修担当

E-mail: rinken_harihime@hgmc.hyogo.jp

HP: <https://hgmc.hyogo.jp/recruit/index.html>

県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく J-OSLER にて登録を行います。

18 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に J-OSLER を用いて県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは臨床研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、J-OSLER への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1 日 8 時間、週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって、研修実績に加算します。留学期間は、原則として研修期間として認めません。

19 県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修施設群

表1 各研修施設の概要

施設区分	病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
基幹施設	県立はりま姫路総合医療センター	736	306	11	46	41	7
連携施設	公立宍粟総合病院	199	80	1	7	2	1
連携施設	赤穂市民病院	360	120	3	5	5	2
連携施設	市立西脇病院	320	86	8	12	7	5
連携施設	県立丹波医療センター	320	130	9	6	10	3
連携施設	市立加西病院	199	70	8	5	5	1
連携施設	姫路中央病院	235	90	2	4	1	3
連携施設	綱島会厚生病院	88	88	1	5	2	0
連携施設	井野病院	100	70	9	5	2	0
連携施設	中谷病院	60	60	5	2	0	0
連携施設	入江病院	199	-	6	1	0	0
連携施設	姫路赤十字病院	560	183	10	23	23	5
連携施設	姫路医療センター	405	209	7	13	19	3
連携施設	姫路聖マリア病院	440	110	1	9	8	0
連携施設	ツカザキ病院	406	90	4	8	6	5
連携施設	県立加古川医療センター	353	132	9	23	17	9
連携施設	県立淡路医療センター	402	136	6	16	15	11
連携施設	加古川中央市民病院	600	209	10	43	32	10
連携施設	北播磨総合医療センター	450	150	9	36	31	9
連携施設	明石医療センター	382	215	6	12	20	5
連携施設	公立豊岡病院	528	169	8	16	8	1
連携施設	神戸医療センター	304	138	9	4	13	2
連携施設	西神戸医療センター	470	150	9	20	20	6
連携施設	神戸市立医療センター西市民病院	358	154	10	18	21	10
連携施設	甲南医療センター	461	305	8	27	25	6
連携施設	神鋼記念病院	333	171	9	27	17	7
連携施設	兵庫中央病院	460	410	6	13	9	0
連携施設	神戸大学医学部附属病院	934	268	11	100	110	14
連携施設	千船病院	308	80	8	11	9	2
連携施設	淀川キリスト教病院	581	265	11	27	34	8
連携施設	京都第一赤十字病院	602	218	13	40	34	8
特別連携 施設	たつの市民病院	120	-	1	1	1	0
研修施設合計					585	547	143

表2 各内科専門研修施設の内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	Iアレルギ	膠原病	感染症	救急
県立はりま姫路総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
公立宍粟総合病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	△	△	○	○
赤穂市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
市立西脇病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
県立丹波医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
市立加西病院	○	○	○	△	○	○	○	△	△	○	△	○	○
姫路中央病院	○	○	×	○	×	×	○	×	○	×	×	○	○
綱島会厚生病院	○	○	△	△	○	△	○	×	×	×	×	○	×
井野病院	○	○	○	○	○	○	△	○	○	△	△	○	○
中谷病院	×	○	○	△	△	△	○	×	×	○	×	×	×
入江病院	○	△	△	×	△	△	△	×	×	×	×	○	○
姫路赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○
姫路医療センター	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○
姫路聖マリア病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ツカザキ病院	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	△	○
県立加古川医療センター	○	○	△	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○
県立淡路医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
加古川中央市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
北播磨総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
明石医療センター	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
公立豊岡病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
西神戸医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸市立医療センター西市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
甲南医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
神鋼記念病院	○	○	○	△	○	△	○	○	○	△	○	△	○
兵庫中央病院	○	○	×	△	○	△	○	×	×	○	△	△	△
神戸大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
千船病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	○
淀川キリスト教病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
京都第一赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
たつの市民病院	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

(1)専門研修基幹施設

県立はりま姫路総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹型臨床研修病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・兵庫県立病院会計年度任用職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント防止委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 46 名在籍しています（下記） ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 7 回、2024 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（姫路市内科専門研修 Group カンファレンス、はりま姫健康講座、地域連携カンファレンス、高機能シミュレータ医療研修講座、地域の総合医と専門医を繋ぐプロジェクトなど）を定期的に開催・参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能です。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2023 年度 7 体、2024 年度 2 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・臨床研究審査委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度実績 5 演題、2024 年度実績 7 演題）をしています。
指導責任者	<p>大内 佐智子</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>兵庫県立はりま姫路総合医療センターは、兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な急性期病院であり、可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざします。</p> <p>当院はドクターヘリを擁する救命救急センターを併設しており、救急医療を数多く経験できます。救急科と内科で密接に連携して救急患者の診療に当たっています。</p> <p>すべての内科系専門領域をカバーしており、全分野において研修ができます。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 46 名、日本内科学会内科専門医 9 名、日本内科学会認定内科医 47 名、日本内科学会総合内科専門医 38 名、日本循環器学会循環器専門医 21

	名、日本神経学会脳神経内科専門医 6 名・指導医 4 名、日本糖尿病学会専門医 5 名・指導医 3 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 5 名・指導医 4 名、日本消化器病学会専門医 9 名・指導医 5 名、日本消化器内視鏡学会専門医 8 名・指導医 5 名、日本肝臓学会専門医 4 名・指導医 2 名、日本腎臓学会専門医 4 名・指導医 2 名、日本透析医学会専門医 3 名・指導医 1 名、日本呼吸器学会専門医 4 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 2 名・指導医 1 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名・指導医 3 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 3 名・指導医 2 名、日本感染症学会専門医 3 名、日本緩和医療学会専門医 1 名・指導医 1 名 ほか
外来・入院患者数	内科系診療科外来患者 11,283 名(2024 年度 1 ヶ月平均) 内科系診療科入院患者 8,748 名(2024 年度 1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本病院総合診療医学会認定基幹施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本超音波医学会超音波専門医研修施設、日本核医学学会専門医教育病院、心エコー図専門医制度研修施設、日本循環器学会経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定施設、日本循環器学会左心耳閉鎖システム実施施設、IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設、日本心臓リハビリテーション認定研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本心血管インターベンション治療学会卵円孔開存閉鎖術実施施設、日本成人先天性心疾患学会認定成人選定性心疾患専門医連携修練施設、ペースメーカ移植術認定施設、埋込型除細動器移植術認定施設、両心室ペースメーカ移植術認定施設、両心室ペーシング機能付き埋込型除細動器移植術認定施設、経静脈電極抜去術（レーザーシースを用いるもの）認定施設、経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設、経カテーテル的大動脈弁置換術専門施設、MitraClip 実施施設、WATCHMAN/左心耳閉鎖システム実施認定施設、PFO 閉鎖術実施施設、IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、植込み型 VAD 管理施設、日本神経学会教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ、日本内分泌学会認定教育施設、日本甲状腺学会認定専門医施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本炎症性腸疾患学会指導施設、日本腎臓学会認定教育施設、日本透析医学会認定施設、日本呼吸器学会連携施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設）、日本血液学会専門研修教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本緩和医療学会基幹施設 ほか

(2)専門研修連携施設

1) 公立宍粟総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修医制度基幹型臨床研修病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境が整備されています。 宍粟総合病院常勤医（地方公務員）として労務環境が保証されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署が設置されています。 ハラスマント委員会が設置されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室、当直室、休憩室等が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、24時間保育が可能です。 単身宿舎・世帯宿舎があります。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会指導医は6名在籍しています。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024年度実績 医療倫理1回、医療安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPCを定期的に開催（2024年度実績1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催（2024年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、特に総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会地方会に年間で計1演題以上の学会発表。その他の学会等で27件の発表を行っています。
指導責任者	山城 有機 【内科専攻医へのメッセージ】 公立宍粟総合病院は、宍粟市で唯一の病院であり、救急患者・紹介患者も多く、様々な症例に巡り会える可能性があります。はりま姫路総合医療センターを基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として、内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医6名、日本内科学会総合内科専門医2名、日本消化器病学会消化器専門医3名、日本腎臓病学会腎臓専門医1名、日本糖尿病学会糖尿病専門医1名、日本肝臓学会肝臓専門医2名
外来・入院患者数	外来患者2,734名（内科のみ1ヶ月平均） 入院患者2,112名（内科のみ1ヶ月平均）
経験できる疾患群	稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	循環器・脳血管疾患等の専門病院との連携、療養型病院・老健施設・特養との連携、近隣の診療所・訪問看護ステーション等との連携など様々な経験ができます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本消化器病学会関連施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本透析医学会専門医教育施設、日本がん治療認定機構認定研修施設、日本糖尿病学会教育関連施設、日本腎臓学会研修施設

2) 赤穂市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 赤穂市常勤医師として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 職員安全衛生委員会（ハラスマント委員会）が院内に整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は 5 名在籍しています（下記）。 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 17 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2025 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催（2024 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：東備・西播磨循環器カンファレンス、赤穂市医師会オープンカンファレンス、千種川カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 特別連携施設（兵庫県災害医療センター）の専門研修では、電話や週 1 回の赤穂市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 専門研修に必要な剖検（2022 年実績 3 体、2023 年実績 2 体、2024 年実績 5 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 医の倫理委員会を設置し、開催しています。 臨床研究・治験センターを設置しています。また治験審査委員会を設置し定期的に開催しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を行っています。
指導責任者	<p>高原 典子</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>赤穂市民病院は、兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な急性期病院であり、播磨姫路医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1

	名、日本透析医学会専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 3 名、日本肝臓学会専門医 1 名、日本消化管学会専門医 1 名、日本老年医学会専門医 1 名、日本心血管インターベンション治療学会認定医 1 名、日本がん治療認定医 3 名、日本高血圧学会専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 11,748 名（病院全体 1 ヶ月平均延患者数） 入院患者 6,399 名（病院全体 1 ヶ月平均延患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会専門医教育関連施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本カプセル内視鏡学会指導施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化管学会認定胃腸科指導施設、日本病理学会専門医研修登録施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本心血管インターベンション治療学会関連施設、日本肝臓学会認定施設、日本ペインクリニック学会指定研修施設、日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士認定教育施設、日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設、日本臨床細胞学会教育研修施設、日本臨床細胞学会認定施設、日本高血圧学会認定研修施設、日本癌治療認定医認定研修施設 など

3) 市立西脇病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 UpToDate が利用可能です。 メンタルストレスに適切に対処する部署（衛生委員会、病院総務課）があります。 ハラスマント委員会が病院内に整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に 22 時まで対応できる院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医が 12 名在籍しています。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を e-Learning で実施し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催（2024 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域 13 分野の全分野において、定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 70 疾患群の全疾患群について症例が経験できます。 専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 6 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表し、内科系学会でも発表を行っています。（2023 年度実績 5 演題） 臨床研究に必要な図書室などの環境を整備しています。 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 治験管理委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会での研修医、専攻医の積極的な学会発表

	<p>を推奨しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術集会への参加を奨励し、学術集会参加費・出張費を支給しています。
指導責任者	<p>岩井 正秀</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>市立西脇病院は、指導医の間に垣根が無いことが特徴です。全職員が教育研修に熱心な病院で、指導医も「万年研修医」のスタンスで自身の専門領域外も一緒に研鑽しながら診療にあたっています。ですから、指導医のみならず内科系医師全員が一体となって専攻医の研修に協力します。</p> <p>研修は内科全般の研修で診療科を区切らず研修を行います。このため症例経験の連続性、診療体制への馴染み、常に幅広い内科学の経験ができる利点があります。</p> <p>その結果、主担当医として入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医の育成を行います。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 8名、日本内科学会総合内科専門医 7名、日本消化器病学会指導医 2名、専門医 3名、日本循環器学会専門医 2名、日本血液学会認定血液専門医 1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1名、日本糖尿病学会指導医 2名・専門医 1名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法指導医 1名・専門医 1名、日本腎臓学会腎臓専門医 1名、日本透析学会専門医 1名、日本老年学会専門医 1名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 154.0 名 (1 日平均) 入院患者 146.4 名 (1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本神経学会准教育施設、日本認知症学会教育施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本呼吸器学会専門医制度関連施設、日本老年医学会認定施設、日本血液学会血液研修施設、日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関認定、日本病理学会研修登録施設、日本環境感染学会認定教育施設、日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設 など

4) 県立丹波医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・スキルスラボが整備されています。 ・地域医療教育センターが設置され、神戸大学からの特命教授等による教育が受けられます。 ・兵庫県職員（会計年度任用職員）医師として労務環境が保障されています。 ・メンター制度を整備しています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康なやみ相談室）が兵庫県職員健康管理センター内にあります。 ・産業医、公認心理師と面談（希望者）ができる制度があり、利用可能です。 ・ハラスマント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に保育所があり、利用可能です。
--------------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・宿舎は、当院近辺で、単身用借上宿舎を提供しています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 6 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（院長）、プログラム管理者（副院長）（総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・TV 会議システムを用いた神戸大学病院等との合同カンファレンスを開催しています。 ・CPC を定期的に開催（2022 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（オープンセミナー、地域医療連携懇談会、地域医療連携症例検討会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2020 年度開催実績 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修委員会が対応します。 ・特別連携施設（丹波市健康センターミルネ診療所）の専門研修では、週 1 回の面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 3 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理審査委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2022 年度実績 9 演題）を行っています。
指導責任者	<p>河崎 悟 【内科専攻医へのメッセージ】 県立丹波医療センターの内科は米国型 GIM の体制で運営されていること、さらに緩和ケア病棟をもつことが大きな特徴です。臓器別内科ローテートとは違う研修が受けられます。内科指導医は非常に教育のマインドが強く、また神戸大学からの教育支援をこれほど受けている病院は他にはありません。ジェネラルなマインドをもった内科専門医になることができます。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本消化器内視鏡学会内視鏡専門医 4 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本消化管学会消化管専門医 1 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 171.1 名（1 日平均） 入院患者 256.7 名（1 日平均）※2022 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、44 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づき

能	ながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本肝臓学会関連施設、日本腎臓学会研修施設、日本胆道学会認定指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本病理学会研修登録施設、日本病院総合診療医学会認定施設、など

5) 市立加西病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境（wi-Fi）があります。 身分は1年目より市立加西病院職員で、地方公務員として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（労働衛生委員会・総務課総務係）があります。 ハラスマント委員会が病院内に整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に21時まで対応できる院内保育所（週1回24時間対応）があり利用可能です。 宿舎については、単身は市内マンションの借り上げ、家族は各種世帯宿舎または市内マンションの借り上げです。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医が5名在籍しています。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPCを定期的に開催（2023年度実績1回）し、専攻医に受講義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（加西市医師会研修会、山陽循環器病談話会、北播磨循環器カンファレンス、きたはりまハートクラブ、加西地区消化器疾患勉強会、播磨消化器疾患勉強会、東播磨消化器疾患懇話会、北播磨肝疾患フォーラム、東播磨地区肝疾患フォーラム、加古川肝疾患懇話会、糖尿病ジャパンアップセミナー、など。）を定期的に開催し、専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 70疾患群のうちほぼ全疾患群（最少でも56疾患群以上）について症例が経験できます。 専門研修に必要な剖検（2023年度実績1体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に必要な図書室などの環境を整備しています。 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024年度実績5回）しています。 治験管理委員会を設置し、隨時受託研究審査会を開催しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表を行っています。 学術集会への参加を奨励し、学術集会参加費・出張費を支給しています。
指導責任者	<p>七星 雅一 【内科専攻医へのメッセージ】 市立加西病院は、内科専門研修の基幹病院でもあります。（2018年度1名、2020</p>

	<p>年度 2 名、2021 年度 2 名採用) 当院は伝統的に教育研修に熱心な病院です。指導医のみならず職員が一体となって専攻医の研修に協力します。</p> <p>研修は専攻医 1 年次は、内科全般の研修を、診療科を区切らず 1 年単位で研修を行います。このため症例経験の連続性、診療体制への馴染み、常に幅広い内科学の経験ができる利点があります。</p> <p>その結果、主担当医として入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医の育成を行います。</p> <p>また、はりま姫路総合医療センターを基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本心血管インターベンション治療学会認定医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 290 名 (1 日平均) 入院患者 146 名 (1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、カリキュラムにある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験する機会が豊富です。
経験できる地域医療・診療連携	地域中核病院として、市内および周辺地域の診療所・病院との病診連携、病病連携を研修できます。また、地域多機能病院として、急性期医療だけでなく、回復期や、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療も経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本ペインクリニック学会指定研修施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本消化器病学会専門医修練施設、日本臨床細胞学会施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本消化器内視鏡学会指導医施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本医学放射線学会放射線科専門医修練協力機関 など

6) 姫路中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修指定病院ではありません。 ・研修に必要なインターネット環境があります。 ・姫路中央病院正職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント防止規定が制定されており、相談窓口（事務部人事課）が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるようにシャワー室、当直室、更衣室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、24 時間 365 日利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 4 名在籍しています（下記） ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染予防対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 医療倫理 0 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（姫路中央病院オープンカンファレンス、見える事例検討会、多職種連携学術講演会、姫路神経カンファレンス 2023 年度実績 8 回）を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えま

	<p>す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CPC を定期的に開催（兵庫臨床神経病理カンファレンス 2023 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・臨床神経内科医会を定期的に当院で開催し、専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、神経の分野で専門的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・2023 年度に行われた剖検数は 3 体です。専門研修に必要な剖検数を得られる予定です。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本神経学会講演会あるいは同地方会に年間で計 4 演題以上の学会発表（2023 年度実績 4 題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。
指導責任者	<p>田畠 昌子</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は 235 床のケアミックス型病院で附属クリニックを併設しています。また兵庫県指定の認知症疾患医療センターとしての役割も担っています。扱う疾患の範囲も非常に広く、認知症、脳血管障害、脱髓疾患、末梢神経障害、神経筋接合部疾患、神経感染症、神経変性疾患、てんかん、頭痛など多岐にわたり、当院では急性期から慢性期まで幅広く対応しています。また、機能的定位脳手術技術認定施設でもあり、DBS や iTB など脳神経外科と連携し学ぶことができます。神経領域はその複雑さから専門性が高く敬遠されている分野だと思いますが、「意識障害」、「痙攣」、「頭痛」、「めまい」、「しびれ」、「手足が動かない」といった内科や救急でよく遭遇する common な症状に詳しくなることができます。この意味で神経を専門にしていると総合内科や救急といった general な分野との橋渡しを担うこともできます。当院ではともに学びサポートするプログラムを用意しています。神経内科に興味をもってもらえる先生が増えて仲間が増えてくれると嬉しいです。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 1 名、日本神経学会専門医 4 名・指導医 3 名、日本認知症予防学会専門医 1 名、日本頭痛学会専門医・指導医 1 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名・認定医 1 名、日本呼吸器学会専門医 1 名、日本血液学会専門医・指導医 1 名、日本リハビリテーション医学会専門医 1 名、日本消化器病学会消化器専門医・指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 3 名、日本消化管学会専門医 1 名・指導医 1 名、日本がん治療認定医機構認定医 1 名
外来・入院患者数	神経内科外来患者数 2951 名（2023 年度 1 ヶ月平均） 新規入院患者 61 名（2023 年度 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、神経疾患は全ての疾患群で数々の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域医療機関や介護施設との連携等を通して地域医療・病診連携を経験することができます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科研修プログラム連携施設、日本神経学会専門医制度教育施設、日本消化器内視鏡学会指導連携施設、日本消化管学会胃腸科指導施設

7) 厚生病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修指定病院ではありません。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・厚生病院の病院正職員として労務環境が保証されます。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。女性医師が常勤で1名、非常勤で3名勤務しています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が6名在籍しています。 ・医療安全・感染対策委員会・衛生委員会を定期的に開催し(2015年度講演会実績、医療安全3回、感染対策2回、医薬品安全管理2回)職員の認識の向上に努めています。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、消化器、呼吸器、代謝の分野で定常に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	2016年糖尿病学会、研究会においても研究発表、消化器病に関する雑誌投稿を行っています。
指導責任者	<p>向原 直木 【内科専攻医へのメッセージ】 高齢化社会到来により地域密着型の内科主体の病院として、急性期から慢性期にかけての医療・介護を担っております。急性期医療は適宜基幹病院と連携しています。近隣の開業医、老人保健施設とも連携をもち、入所者の急変にも対応しています。在宅医療（訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーション）にも力を入れています。血液透析も行っております。当院が協力病院となっているのは、施設14施設、医院14医院あります。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合指導医2名、日本内科学会認定内科医3名、日本消化器学会専門医指導医3名、日本消化器病学会専門医5名、日本消化器内視鏡学会指導医2名・専門医3名、日本肝臓学会専門医指導医1名、日本肝臓学会専門医1名、日本糖尿病学会専門医3名研修指導医2名、日本呼吸器学会専門医2名、日本循環器学会認定循環器専門医1名
外来・入院患者数	内科外来患者数 52,841名/年(H28年度) 入院患者数 1,780名/年(H28年度)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群のうち、稀な疾患を除けば幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	併設された介護保険療養棟、老人保健施設、訪問看護ステーション、デイケア一、デイサービスなどあり、訪問リハビリテーションや訪問診療を通して地域医療・介護・病診連携を経験することができます。
学会認定施設 (内科系)	日本消化器病学会関連施設、日本糖尿病学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化器がん検診学会認定指導施設、日本プライマリ・ケア学会研修指定病院

8) 井野病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修指定病院ではありません。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境(Wi-Fi)があります。 ・井野病院の常勤医師と同様の労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当および産業医)があります。 ・ハラスメント委員会が(職員暴言・暴力担当窓口)が井野病院内に設置されて
--------------------------------	--

	<p>います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は 3 名在籍しています。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回（各複数回開催）、感染対策 2 回実施し、専攻医に受講のための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（地域の多病院と連携した訪問診療カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、血液、代謝の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<p>兵庫県医師会医学会 2016 年 10 月 カバード金属ステント留置を行った超高齢者悪性胆道狭窄の 2 例 2007 年 10 月 胆管ステント 十二指腸ステントを留置した十二指腸乳頭部癌の 1 例 2018 年 10 月 内視鏡的に治療した胃切除・ビルロートⅡ法再建後の総胆管結石症の 2 例 2019 年 10 月 経皮経食道胃管挿入術を行った進行胃癌の 1 例</p>
指導責任者	<p>森本 真輔 【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>高齢化社会到来により地域密着型の内科主体の病院として、急性期から慢性期にかけての医療・介護を担っております。急性期医療は適宜基幹病院と連携しています。近隣の開業医、高齢者施設とも連携をもち、入所者の急変にも対応しています。在宅医療（訪問診療・訪問看護）にも力を入れています。血液透析も行っています。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 3 名、日本内科学会総合内科専門医 1 名、日本消化器病学会専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医 1 名、日本胆道学会指導医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本血液学会専門医 1 名
外来・入院患者数	<p>1 日平均外来患者数 197.9 人/日（2019 年度） 1 日平均入院患者数 73.7 人/日（2019 年度）</p>
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	併設された介護老人保健施設、訪問看護ステーション、サービス付き高齢者向け住宅などがあり、通所リハビリテーションや訪問診療を通して地域医療・介護・病診連携を経験することができます。
学会認定施設 (内科系)	日本消化器病学会関連施設、日本胆道学会指導施設

9) 中谷病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修指定病院ではありません。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・中谷病院の病院正職員として労務環境が保証されます。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署が総務課にあります。 ・ハラスマント委員会が院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備せられています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 2 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設け、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し、そのための時間的余裕を与えます。 (2019 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回) ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、選考医に徐行を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（地域の他病院との連携した訪問診療カンファレンス）を定期的に開催し、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消火器内科、呼吸器内科、循環器内科、アレルギー科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	
指導責任者	<p>中谷 裕司 【内科専攻医へのメッセージ】 ますますの高齢化社会到来により、地域密着型の内科主体の病院として、特に慢性期医療・介護に重点おき、急性医療は基幹病院との連携をとることが地域住民にとって最も必要と考え、多機能型病院を目指しています。また、人工透析、リハビリテーションの充実を図り、在宅医療（訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション）にも力を入れています。 </p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 2 名、日本アレルギー学会 アレルギー専門医 1 名、 日本循環器学会 循環器専門医 1 名
外来・入院患者数	1 日平均外来患者数 (2024 年 4 月～2025 年 3 月 122.7 名) 1 日平均入院患者数 (2024 年 4 月～2025 年 3 月 54.2 名)
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、まれな疾患を除けば幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	併設された通所リハビリテーションや訪問診療を通して、地域医療・介護・病診連携を経験することができます。
学会認定施設 (内科系)	日本アレルギー学会準教育施設

10) 入江病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度における臨床研修協力施設です。 ・入江病院医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー
--------------------------------	---

	<p>室、当直室が整備されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地近くに託児所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 基幹施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 基幹病院で定期的に行われる医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスに専攻医の参加・受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 基幹施設である兵庫県立はりま姫路総合医療センターで行う CPC、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（姫路市内科専門研修 Group カンファレンス、はり姫健康講座、地域連携カンファレンス、高機能シミュレータ医療研修講座、地域の総合医と専門医を繋ぐプロジェクトなど）を専攻医に参加・受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち救急、総合内科、感染症の分野で定常に専門研修が可能です。 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	なし
指導責任者	<p>入江 聰五郎 【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>外来診療・救急医療から病棟管理まで、地域包括ケアシステムの中核施設で働くメンバーとして直接診療にあたります。臨床診断アセスメントから治療方針を決定し実践します。指導医からのフィードバックについては出勤日ごとに毎回行います。他職種によるチーム医療を患者・家庭・社会の側面からアプローチし、チームメンバーとして直接対応します。</p>
指導医数 (常勤医)	なし
外来・入院患者数	<p>内科系診療科外来患者 1,426 名 (2024 年度 1 ヶ月平均)</p> <p>内科系診療科入院患者 72 名 (2024 年度 1 ヶ月平均)</p>
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	<p>2 次救急告示病院として 24 時間の受入体制をはじめ、急性期・慢性期や在宅医療を経験できます。</p> <p>また、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	なし

11) 姫路赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境(Free Wi-Fi)があります。 姫路赤十字病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課）があります。 ハラスマント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
--------------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地内に院内保育所があり、病児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 23 名在籍しています。 ・施設内に臨床研修センターと内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、併せて設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全 10 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度：5 回、2023 年度実績：5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会、姫路市救急医療合同カンファレンス、姫路循環器談話会、姫路呼吸器研究会、姫路消化器病研究会等）を定期的に開催し、専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。 ・当プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・研修に必要な内科剖検（2022 年度 5 件、2021 年度 9 件、2020 年度実績：2 体、2019 年度実績：8 体、2018 年度実績：12 体、2017 年度実績：11 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・医中誌、PubMed、Clinical Key、Cochrane Library、DynaMed、UpToDate、今日の診療など文献検索、データベース、医療情報に加え、冊子体ジャーナル（和雑誌 108 誌、洋雑誌 81 誌購読）を取り揃えています。 ・UpToDate anywhere を自宅 PC や mobile 機器で、いつでも、どこでも、何時間でも利用できます。（但し、通信費用は自己負担です） ・Clinical Key : 1, 100 以上の書籍・教科書、600 以上のジャーナル、17, 000 以上の医療動画など豊富な医療情報を入手できます。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績：12 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に自主研究・受託研究審査会を開催（2024 年度実績：15 回）しています。 ・日本内科学会総会や同地方会で積極的に発表しています（2024 年度実績：3 演題）。 ・Subspecialty 学会に積極的に発表しています（2024 年度実績：38 演題）。
指導責任者	<p>プログラム統括責任者 筑木隆雄</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>姫路赤十字病院は、兵庫県はりま姫路医療圏の中心的な急性期総合病院であり、消化器、肝臓、循環器、血液、呼吸器、膠原病、腎臓、糖・代謝・内分泌、消化器内視鏡の専門診療を積極的に展開しています。</p> <p>本プログラムの連携施設として、上記領域の専門診療並びに内科救急疾患診療を研修することにより、質の高い、幅広い診療領域に通じた、地域に根差した医療を実践できる内科専門医を育成することを目指しています。</p> <p>姫路赤十字病院では、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）までを通じて、確かな診断・治療はもとより、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医となれるように、しっかりと指導し</p>

	ます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 23 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名、日本消化器病学会消化器専門医 11 名、日本肝臓学会肝臓専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本糖尿病学会専門医 0 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、日本消化器内視鏡学会専門医 11 名
外来・入院患者数	外来患者延べ数 86,730 名 (2023 年度実績) 新入院患者 6,255 名 (2023 年度実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群、200 疾患の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	地域がん診療連携拠点病院（高度型）、日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本アレルギー学会認定準教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本放射線腫瘍学会認定協力施設、日本インターベンショナルジャパン学会(IVR)専門医修練認定施設、日本ペインクリニック学会指定研修施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本集中治療医学会専門医研修施設、日本急性血液浄化学会認定指定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修関連施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 など

12) 姫路医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 姫路医療センター期間職員として待遇され賞与、超過勤務手当、当直手当の支給あり、労務環境が保障されています。 専攻医用宿舎があります。 メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課）があります。 ハラスマントに関して安全衛生委員会が担当しています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は 13 名在籍しています（2025 年 4 月現在）。 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：河村哲治）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 指導医も専攻医も研修状態を電子カルテ端末上でリアルタイムに管理できるよう IT 技術を駆使した本院独自の研修支援システムを構築します。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催（2024 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（月曜会、若手医師のための呼吸器勉強会等）を

	<p>定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（姫路市内の病院で共同開催の予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会と事務部が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 10 分野において全疾患群について定常に専門研修が可能な症例数を診療しています。3 分野（内分泌、腎臓、神経）については一部の疾患群で症例数が不足していますが連携施設での研修で十分な研修が可能です。 ・専門研修に必要な剖検（年間平均約 4 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（毎月 1 回開催）しています。 ・臨床研究推進室（治験管理、自主研究管理）を設置し、受託研究審査会も毎月 1 回開催しています。
指導責任者	<p>河村 哲治</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姫路医療センターには、ややもするとありがちな出身大学間や人間関係の軋轢がなく、アットホームな雰囲気で研修に集中でき、従来の後期研修医からも人気を集めしており、後期研修終了後は常勤医師に昇進する例が大多数を占めています。 ・本院独自に開発している研修支援システムは、細かな規則も含めたカリキュラム規定をすべて盛り込んで全専攻医が能率的に確実にカリキュラムを消化できるようにテクニカルな側面から強力に支援を行うものであり、リアルタイムに研修進行過程を視覚的に確認することが可能であり、安心して研修に集中することを支援します。 ・研修支援システムの補助により、内科全科同時研修進行を可能としており、希少症例もタイムリーに経験することを可能とし、無理のない学会報告をも可能としています。 ・サブスペシャルティの並行研修を行うことを強く意識していますが、それを希望する場合は研修支援システムの補助のもと研修進行状況を厳重に管理し実現に向けて最大限の支援を行います。 ・とくに呼吸器、消化器については先進的なサブスペシャルティ研修が可能です。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 19 名、日本消化器病学会消化器専門医 10 名、日本消化器内視鏡学会専門医 9 名、日本消化器内視鏡学会指導医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本糖尿病学会指導医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 17 名、日本呼吸器学会呼吸器指導医 6 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 9 名、日本呼吸器内視鏡学会指導医 4 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、日本リウマチ学会指導医 2 名、日本感染症学会専門医 2 名、日本感染症学会指導医 1 名ほか
外来・入院患者数	内科系の外来患者 7,030 名（1 ヶ月平均） 内科系の入院患者 5,910 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例について、腎疾患、神経疾患については一部の疾患群で症例数が不足しているが、その他は幅広く経験することができます。不足領域は連携病院での研修で十分研修できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 (内科系)	日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設 など
-----------------	---

13) 姫路聖マリア病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修病院基幹型研修指定病院で、NPO 法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定施設です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・姫路聖マリア病院正職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するにメンタルヘルスケアシステムがあります。 ・ハラスマント委員会（暴言、暴力の窓口）が院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 9 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修プログラム委員会にて、基幹施設・連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2022 年度実績 2 回）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（姫路聖マリア病院オープンセミナー2023 年度実績 13 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科・消化器・呼吸器・腎臓・代謝・血液・感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・2024 年度行われた剖検数は 3 体です。専門研修に必要な剖検数を得られる予定です。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を行っています。 ・今日の診療やメディカルオンラインなどのデータベースに加え、冊子体ジャーナルを 74 タイトル、電子ジャーナル 7 タイトルを取り揃えております。
指導責任者	<p>松村 正 【内科専攻医へのメッセージ】 姫路聖マリア病院は、救急医療から透析、緩和医療まで広く地域に貢献している急性期病院です。主担当医として、入院から退院までの全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 9 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、日本

	アレルギー学会アレルギー専門医 3名、日本老年病学会老年病専門医 1名 ほか
外来・入院患者数	内科外来患者数 3,450 名（2023 年度・1か月平均） 入院患者 134 名（2023 年度・1か月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、稀な疾患を除けば幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	併設された老健施設やホスピスの症例を通して地域医療・病診連携を経験することができます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本呼吸器学会認定施設、日本アレルギー学会認定教育施設（内科）、日本血液学会認定専門研修教育施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設、日本消化器内視鏡学会指導連携施設、日本透析医学会教育関連施設 など

14) ツカザキ病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院で NPO 法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定施設です。 研修に必要な図書室とオンライン購読可能な書籍を多数用意、個別のインターネット環境を整備、また電子カルテ上で参照可能な診療データベースを利用できます。 ツカザキ病院常勤医師として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ハラスマント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に 24 時間体制の院内託児所があり、24 時間 365 日利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会指導医が 8 名在籍しています（下記）。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催（2024 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（病診・病病連携カンファレンス 3 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、血液、神経、および救急の分野で定常に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 3 演題）を予定しています。
指導責任者	飯田 英隆 【内科専攻医へのメッセージ】

	当院は姫路市西部に位置し、病床数は406床でHCU8床、SCU12床を有し、播磨姫路医療圏の急性期・救急医療を担っています。地域の1次～3次の救急、および高度専門医療までの幅広い症例を受け入れ、全般的にEBMに基づいた医療を実践し、「患者本位の医療」を行っています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 8名、日本内科学会総合内科専門医 5名、日本循環器学会循環器専門医 3名、日本神経学会神経内科専門医・指導医 2名、日本消化器病学会専門医 5名・指導医 2名、日本消化器内視鏡学会専門医 3名・指導医 1名、日本消化管学会専門医 1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医 1名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医 1名、日本糖尿病学会専門医・指導医 1名
外来・入院患者数	内科系外来患者 3,596名（1か月平均） 内科系入院患者数 3,659名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育関連病院、日本消化器病学会専門医制度関連施設、日本消化器内視鏡学会指導連携施設、日本消化管学会認定胃腸科指導施設、日本循環器学会専門医研修施設、日本神経学会認定准教育施設、日本透析医学会教育関連施設

15) 県立加古川医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 兵庫県非常勤医師として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ハラスマント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワールーム、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は 23 名在籍しています。 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（糖尿病・内分泌内科部長）、プログラム管理者（総合内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024年度実績 8回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催（2022年度実績 9回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（播磨消化器疾患勉強会 2023年度実績 1回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応します。

認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 9 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 9 体、2021 年度実績 7 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2022 年度実績 6 演題）をしています。
指導責任者	<p>田守 義和</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>県立加古川医療センターは、兵庫県の政策医療として東播磨地域の 3 次救命救急医療を担うと同時に、生活習慣病医療、緩和ケア医療、神経難病医療、感染症医療の充実という役割を担っています。すなわち疾病予防から、生活習慣病にかかる疾患の急性期医療から慢性期医療、がん医療まで幅広い病態に対応し、さらには終末期医療も行う、という内科としてあらゆる病期ステージに対応しているのが特徴です。肝疾患、消化器疾患については地域の拠点病院として機能していますが、糖尿病・内分泌代謝疾患については兵庫県全域の拠点病院となり、地域のみならず兵庫県全県的なネットワークによる医療連携を実現しています。施設統合により膠原病内科および腎臓内科が稼働を始め、膠原病類縁疾患、腎疾患についても数多くの症例を経験可能です。内科各領域が高度な専門医療を提供している施設であるため、研修達成度によっては期間内に Subspecialty 研修との並行研修も可能です。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 23 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名、日本消化器病学会消化器専門医 8 名、日本肝臓学会専門医 8 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、日本腎臓学会専門医 1 名
外来・入院患者数	<p>外来患者 6,525 名（内科：1か月平均）</p> <p>入院患者 316 名（内科：1か月平均）</p>
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本神経学会准教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本甲状腺学会認定専門医施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本リウマチ学会教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定施設

16) 県立淡路医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 兵庫県会計年度任用職員（常勤医師）として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ハラスメント委員会が兵庫県立淡路医療センターに整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー
--------------------------------	---

	<p>室、当直室が整備されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 15 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修・研究センター2019 年度に設置。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（淡路循環器病研究会、淡路病診連携カンファレンス、淡路医師会勉強会、消化器病症例検討会など；2022 年度実績 6 回、2023 年度実績 11 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2024 年度開催実績 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 11 体、2023 年度実績 7 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2023 年度実績 6 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2023 年度実績 6 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2021 年度実績 2 演題、2022 年度実績 1 演題）をしています。
指導責任者	<p>奥田 正則</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>兵庫県立淡路医療センターは、兵庫県淡路医療圏の中心的な急性期病院であり、淡路医療圏・近隣医療圏にある連携施設と協力して内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として、入院から退院後（初診・入院～退院・通院）までの診断・治療の流れを通じて、社会的背景や療養環境調整も含めた全人的医療を実践できる内科専門医が到達目標です。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 15 名、日本内科学会総合内科専門医 14 名、日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本心血管インターベンション学会専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本老年医学会老年病専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	<p>外来患者 294 名（内科系：1 日平均）</p> <p>入院患者 159 名（内科系：1 日平均）</p>
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病

療・診療連携	連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本消化器病学会専門医制度関連施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本心血管インターベンション治療学会連携施設、日本超音波医学会研修施設、日本集中治療医学会専門医研修施設、日本病理学会研修登録施設、日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設、日本血液学会専門研修教育施設、日本神経学会準教育施設、日本老年医学会認定施設 ほか

17) 加古川中央市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 加古川中央市民病院常勤医師として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（人事部）があります。 ハラスメント委員会が人事部に整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会指導医は 43 名在籍しています。 研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し（各複数回開催）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 基幹施設が定期的に主催する研修施設群合同カンファレンスに参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催（実績：2023 年度 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し（東播磨地域ネットワーク研究会→年 3 回、循環器懇話会→年 2 回中 1 回カンファレンス形式開催、在宅連携事例検討会→年 3 回 他）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常に専門研修が可能な症例数を診療しています。 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 臨床研究・治験センターを設置しています。また治験審査委員会を設置し定期的に開催しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	<p>西澤 昭彦 【内科専攻医へのメッセージ】 加古川中央市民病院は 600 床を有する総合病院で、充実した診療科を揃えて地域の急性期医療を担う中心的存在となっています。各内科領域の専門医が多く在籍しているため内科専門医・サブスペシャリティ専門医資格取得への質の高い研修ができます。救急診療、高度専門診療のみならず、一般的な内科診療も経験でき、内科医としての総合力が身につきます。勉強会に参加する機会も多く、自身の専門領域以外の知識も深めることができます。研修期間中に参加が必須とされる各種講習会（感染、医療安全、医療倫理）、JMECC も定期的に開催しており、受講ができます。また、地域医療を担う一医師として、患者さんのみならず、院内スタッフ・周辺医療施設の医療従事者にも信頼されるよう頑張ってほしいと思</p>

	います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 43 名、日本内科学会総合内科専門医 33 名、日本消化器病学会消化器専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 17 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本肝臓学会肝臓専門医 6 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、日本感染症学会専門医 1 名ほか（以上内科所属に於いて）
外来・入院患者数	外来患者 29,700 名（病院全体 1 ヶ月平均） 入院患者 15,962 名（病院全体 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本アレルギー学会教育施設、日本老年医学会専門医制度認定施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本動脈硬化学会専門医制度教育施設、日本高血圧学会認定研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設、日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本血液学会血液研修施設、日本リウマチ学会認定研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本神経学会准教育施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 など

18) 北播磨総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 北播磨総合医療センター非常勤医師（常勤の嘱託職員）として労務環境が保障されています。 ハラスメント防止委員会が設置されており、各種ハラスメントに対処しています。 メンタルストレスについては、経営管理課が窓口となり、院内に臨床心理士及び産業医を配置し対処しています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に 24 時間利用可能な院内保育所があり、平日 8 時から 18 時は病児保育にも対応しています。 宿舎は、病院敷地内宿舎若しくは三木市・小野市エリアで、単身用借上宿舎の提供又は住居手当による対応を予定しています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は 29 名在籍しています。（下記） 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（副院長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている内科専門研修委員会との連携を図ります。 基幹施設に研修する専攻医の専門研修を管理する内科専門研修プログラム管理委員会を設置します。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催（2024 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、その

	<p>ための時間的余裕を与えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域参加型のカンファレンス（北播磨総合内科セミナー、北播磨消化器循環器連携懇話会、北播磨病診連携講演会、北播磨 Vascular Meetingなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（毎年度 1 回開催予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 9 回）しています。 ・日本内科学会地方会に年間で計 5 演題以上の学会発表をしています。 ・学術集会への参加を奨励し、学術集会参加費・出張費を支給しています。
指導責任者	<p>安友 佳朗 【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>北播磨総合医療センターは、「患者にとって医療機能が充実し、安心して医療を受けられること」また「医師、技師、看護師などの医療人にとって人材育成能力が高く、やりがいがあり、働き続けられる環境であること」など、「患者にとっても、医療人にとっても魅力ある病院となること」を目指して 2013 年 10 月に開院した病院です。</p> <p>教育熱心な指導医のもと内科全般の主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉までの診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医の育成を病院全体で支えます。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 29 名、日本内科学会総合内科専門医 29 名、日本消化器病学会消化器専門医 12 名、・日本循環器学会認定循環器専門医 12 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、・日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、日本感染症学会感染症専門医 2 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,039.9 名（1 日平均） 入院患者 317.3 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本病院総合診療医学会認定施設、日本老年医学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設 I、日本内分泌学会認定教育施設、日本認知症学会専門医制度教育施設、日本血液学会専門研修認定施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設、経皮的僧弁接合不全修復システム実施施設、IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、経カテーテル心筋冷凍焼灼術認定施設、日本脈管学会研修指定施設、日本感染症学会研修施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本胆道学会指導施設、日本炎症性腸疾患学会専門医制度 IBD 指導施設、日本膝

	臓学会認定指導施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本神経学会専門医制度教育施設、日本臨床神経生理学会認定施設、日本脳卒中学会研修教育病院、日本脳卒中学会一次脳卒中センターコア施設、日本血栓止血学会認定医制度認定施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修基幹施設、日本リハビリテーション医学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設、日本腎臓学会認定教育施設、日本アフェレシス学会認定施設、日本リウマチ学会リウマチ教育施設、日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関、日本核医学会専門医教育病院、日本放射線腫瘍学会認定施設、日本動脈硬化学会認定専門医認定教育施設、画像診断管理認証施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、病院総合医育成プログラム認定施設、総合輸血機能評価認定制度（I&A）認証施設、日本脳ドック学会施設認定、日本緩和医療学会認定研修施設、日本禁煙学会教育施設 など
--	--

19) 明石医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 明石医療センター常勤医師として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署及びハラスマント委員会として労働安全衛生委員会が病院内に設置されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 院内の近くに院内保育所があり、利用可能です。 (申請の時に説明・書類手続きがある為必ず事前にご連絡をお願い致します)
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会指導医は 12 名在籍しています。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催（年間 4 回程度）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（感染防止対策地域カンファレンス 2 回、地域医療連携の会 1 回等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を予定しています。 レジデントのための臨床研究ワークショップを定期的に行い臨床研究について勉強する機会を設けています。 症例報告や臨床研究の学会報告や論文作成も活発に行い、医学統計専門家や外国人講師による英文校正の指導を受けることができます。
指導責任者	中島 隆弘 【内科専攻医へのメッセージ】 明石医療センターは「患者さんを中心に、その期待に応える医療を行い、地域との連携を密にして、社会に貢献します」という理念のもと、明石市の中心的な急性期病院として、地域に根差した医療を行っています。専門内科(呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科)および総合内科の指

	専門医は充足しており、サブスペシャリティの研修はもちろんのこと、総合内科医として幅広い研修が可能です。2019年度から救急科専門医が赴任し、コモンディジーズから高度急性期医療まで、さらに幅広い診療が可能となりました。外科系の診療科は、心臓血管外科、外科、呼吸器外科、整形外科、産婦人科が活発に診療しており垣根の低い連携が可能です。また症例報告や臨床研究にも力を入れており、学会発表・論文作成の指導体制も整っており、毎年研修医・専攻医の英語論文がアクセプトされています。症例の少ない疾患に関しては、それらの症例を経験できるように考慮した関連病院での研修が可能であり、3年間で13領域、70疾患群の症例を十分に経験することができます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 12名、日本内科学会総合内科専門医 20名、日本循環器学会専門医 7名、日本呼吸器学会専門医 5名、日本消化器病学会専門医 12名、日本消化器内視鏡学会専門医 11名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 3名、日本肝臓学会専門医 5名、日本心血管インターベンション治療学会専門医 1名、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 1名、日本感染症学会専門医 3名、日本腎臓学会専門医 4名、日本透析医学会専門医 2名、日本糖尿病学会専門医 2名、日本内分泌代謝科専門医 2名ほか
外来・入院患者数	外来患者 7,405名（内科系診療科のみ1ヶ月平均 延べ患者数） 入院患者 6,797名（内科系診療科のみ1ヶ月平均 延べ患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本透析医学会専門医教育関連施設、社団法人日本感染症学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、IMPELLA補助循環用ポンプカテーテル実施施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、一般社団法人日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設（呼吸器内科）など

20) 公立豊岡病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹型臨床研修病院(初期臨床研修)に指定されています。 ・研修に必要な図書館・インターネット環境・個人用机を完備しています。 ・公立豊岡病院での研修期間中の就業条件は豊岡病院と基幹施設との協定に基づき保障されます。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(安全衛生委員会・産業医)があります。 ・苦情処理委員会がハラスメントに対応します。 ・女性専用の更衣室・シャワー室を完備しています。 ・敷地内に院内保育所を開設しています。 ・医師用宿舎を備えています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 16 名在籍しています。 ・専門研修プログラム管理委員会を設置しプログラム内で研修する専攻医の研修を管理します。 ・専攻医に対し、医療倫理、医療安全、感染症対策講習会の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	<ul style="list-style-type: none"> • CPC を開催し、専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 各診療科では定期的にカンファレンスを開催し、専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • Web 会議システムを活用した地域参加型カンファレンスを定期的に開催しています。地域参加型のカンファレンス（基幹施設：但馬内科医会、但馬内科合同カンファレンス、但馬消化器疾患研究会、（Web 会議システムによる）兵庫G I Mカンファレンス(月1回)、県養成医カンファレンス(週1回)） • プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 日本専門医機構による施設実地調査に教育研修部が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> • カリキュラムに提示した 13 領域全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を確保しています。 • 専門研修に必要な剖検数（2021 年度 5 件、2022 年度 4 件、2023 年度 1 件、2024 年度 4 件）を確保しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> • 臨床研究に必要な図書室を整備しています。 • 倫理委員会を設置し、開催しています。 • 治験審査委員会を設置し、開催しています。 • 日本内科学会講演や地方会において学会発表を行うことが可能です。 • 学会参加費を助成しています。
指導責任者	<p>石田 明彦 （循環器内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 公立豊岡病院は北兵庫地域の 528 床を有する地域中核病院であり、ドクターへリ・ドクターカーを持つ救命救急センターもあるため、広域の医療圏から数多くの患者が集中いたします。このため、救急内科疾患をはじめ、希有な疾患から common disease まで幅広く経験していただけます。 また、我々指導医は、皆様が患者本位の全人的な医療サービスが提供できる責任感のある医師であり、かつ、学究的な医師となられるように指導させていただきます。</p>
指導医数 (常勤医)	総合内科専門医 8 名、日本神経学会専門医 2 名・指導医 2 名、日本脳卒中学会専門医 1 名・指導医 1 名、日本呼吸器学会専門医 2 名・指導医 1 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 1 名、日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医、日本消化器病学会専門医 3 名・指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 3 名・指導医 1 名、日本消化管学会胃腸科専門医 1 名、日本循環器病学会循環器専門医 4 名、日本腎臓学会腎臓専門医 1 名、日本透析医学会透析専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名・指導医 1 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名、日本高血圧学会専門医 1 名・指導医 1 名、プライマリ・ケア連合学会認定医 1 名・指導医 1 名（専門領域）
外来・入院患者数	内科系入院患者数 5,309 人/月(延数・1 ヶ月平均) 内科系外来患者数 5,324 人/月(延数・1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域（総合内科 I ・ II ・ III 、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急）、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に記載された内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することが可能。
経験できる地域医療・診療連携	【地域医療、全人的医療、病診連携・病病連携、検診の経験】 急性期医療だけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力を修得しま

	<p>す。</p> <p>また、公立豊岡病院は、兵庫県但馬医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域に根ざす第一線の病院でもあることから、common disease の経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や在宅訪問診療などの病診連携も経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本神経学会専門医制度教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ、日本高血圧学会専門医制度研修施設Ⅰ

21) 神戸医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 神戸医療センター期間医師として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（事務部管理課担当）があります。 ハラスマント委員会が神戸医療センターに整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室（予備の当直室を使用可、シャワーブース有）、当直室（シャワーブース有）が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会指導医は 4 名在籍しています。 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（内科系診療部長：総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と職員研修部を設置します。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 14 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催（2024 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（須磨区臨床談話会；2024 年度実績 3 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（毎年 1 回開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 特別連携施設（名谷病院）の専門研修では、電話や週 1 回の神戸医療センターでの面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 56 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 専門研修に必要な剖検（2024 年度 2 体、2023 年度 4 体、2022 年度 6 体、2021 年度 5 体、2020 年度 12 体、2019 年度実績 13 体、2018 年度実績 10 体、2017 年度実績 12 体、2016 年度実績 16 体）を行っています。
認定基準	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。

【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 5 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2024 年度実績 7 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2016 年度実績 3 演題、2017 年度実績 2 演題、2018 年度実績 7 演題、2019 年度実績 6 演題、2020 年度実績 7 演題、2021 年度実績 5 演題、2022 年度実績 5 演題、2023 年度実績 6 演題、2024 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	<p>三輪 陽一 【内科専攻医へのメッセージ】 神戸医療センターは、兵庫県神戸市須磨区医療圏の中心的な急性期病院であり、連携施設として神戸大学医学部附属病院、国立病院機構兵庫中央病院、兵庫県立がんセンター、兵庫県立はりま姫路総合医療センター、神戸市立医療センター西市民病院、神戸市立西神戸医療センター、社会医療法人愛仁会明石医療センター、社会医療法人愛仁会高槻病院、特別連携施設として名谷病院と施設群を形成して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医育成を目指します。 当センターは、総合病院としての機能を果たしながら、昭和 60 年から 38 年の長きにわたり、厚生省・臨床研修指定病院として多くの研修医を育ててきた実績のある病院であり、内科学会教育病院としての資格を有しています。Common disease から珍しい病気まで多くの症例を経験でき、最新の専門的医療・実技を習得してもらえる体制をとっています。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医の育成に努めます。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名、日本循環器学会専門医 7 名、日本呼吸器学会指導医 1 名、日本呼吸器学会専門医 3 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名、日本消化器病学会指導医 2 名、日本消化器病学会専門医 6 名、日本消化器内視鏡学会指導医 2 名、日本消化器内視鏡学会専門医 4 名、日本肝臓学会専門医 2 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 9,092.8 (1 ヶ月平均) 入院患者 233.5 名／日 (2024 年度実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本胆道学会認定指導医制度指導施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本糖尿病学会教育関連施設認定施設、など

22) 西神戸医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方独立行政法人神戸市民病院機構（以下、「機構」という）の任期付正規職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するため外部相談窓口を設けています。
--------------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスマント防止対策委員会が機構内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 ※要事前相談
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・内科指導医は 20 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（年間 5 回～10 回程度）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（神戸西地域合同カンファレンス 3 回程度、各種カンファレンス他）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を予定しています。 倫理委員会を設置し定期的に開催しています。 治験委員会を設置し定期的に受託研究審査会を開催しています。
指導責任者	永澤 浩志 【内科専攻医へのメッセージ】 神戸市立西神戸医療センターは神戸市西区を中心とした西地域の中心的な急性期病院であり、地域に密着した救急医療と、がん診療連携拠点病院としての高度医療を 2 本柱としています。コモンディジーズから重症疾患まで、幅広い症例を経験できます。結核病棟（45 床）を有しており、結核症例も豊富です。 また、当院は平成 6 年の開院当初より地域医療室を開設しており、一貫して地域連携を推進しています。さまざまな病診、病病連携について経験可能です。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 20 名、日本内科学会総合内科専門医 20 名、日本消化器病学会消化器病専門医 6 名、日本消化器内視鏡学会専門医 6 名、日本肝臓学会専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 6 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医 2 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 11,088 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数） 入院患者 5,245 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本内

	分泌学会認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医教育関連施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本血液学会血液研修施設、日本神経学会准教育施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設など
--	--

23) 神戸市立医療センター西市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 地方独立行政法人神戸市民病院機構（以下、「機構」という）の任期付職員として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処するため、臨床心理士を中心とした心理カウンセラー等の専門スタッフに相談ができる窓口を設置しています。 ハラスマント委員会が機構内に整備されており、ハラスマントに関する相談・被害を申し出ができる窓口を設置しています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、院内保育所、病児保育室、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 利用可能な院内保育所があります。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は 18 名在籍しています（下記）。 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます CPC を定期的に開催（2024 年度実績 10 回）し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます 地域参加型のカンファレンス（2024 年度実績 27 回）を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します 特別連携施設の専門研修では、電話や週 1 回の西市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記） 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記） 専門研修に必要な剖検（2022 年度 12 体、2023 年度 6 体、2024 年度 6 体）を行っています
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています 倫理委員会、倫理問題検討委員会を設置し定期的に開催しています 治験委員会を設置し定期的に受託研究審査会を開催（2024 年度実績 12 回）しています 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 6 演題）をしています
指導責任者	<p>西尾 智尋 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県神戸医療圏西部の中心的な急性期病院である神戸市立医療センター西市民病院を基幹施設として、兵庫県神戸市医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別</p>

	連携施設とで内科専門研修を経て兵庫県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として兵庫県全域を支える内科専門医の育成を行います。主担当医として、救急対応、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 21 名、日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本肝臓学会専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本腎臓学会腎臓専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本感染症学会専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 3 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 6,955 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数） 入院患者 5,009 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数） 2024 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	技術、技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術、技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会関連施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本神経学会準教育関連施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定教育関連施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本感染症学会認定研修施設 など

24) 甲南医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります。 甲南医療センター常勤医として労務環境が保障されます。 メンタルストレスに適切に対処する部署（院内 心の相談窓口・公認心理師/臨床心理士）があります。 ハラスメント委員会が（職員暴言・暴力担当窓口）が甲南医療センター内（総務部・安全衛生課）に設置されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医が 27 在籍しています。 内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を職員必須講習として定期的に開催し医療倫理講習会（2024 年度 1 回）、医療安全講習会（2024 年度 3 回）、感染対策講習会（2024 年度 3 回）を開催し専攻医にも受講を義務付けます。 CPC を定期的に開催し（2024 年度実績 7 回）、専攻医に受講を義務付け、そのため時間的余裕を与えます。 地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており専攻医に特定数以上の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。

認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちいずれかの分野で定常に専門研修が可能な症例数を診療しています。 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 専門研修に必要な剖検（2024 年度 6 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に必要な図書室、教育研修センターなどを設置しています。 倫理委員会を設置しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしており、関連学会での発表も定期的に行ってています。 学術集会への参加を奨励し、学術集会参加費・出張費を支給しています。
指導責任者	<p>小別所 博（脳神経内科） 【内科専攻医へのメッセージ】 甲南病院は 1934 年に眺望のすばらしい阪急御影の山手に開院され、以後地域の基幹病院として地域医療に貢献してきました。建物の老朽化もあり 2017 年より建て替え工事がはじまり、1 期工事の終了した 2019 年 10 月より六甲アイランド病院と統合され、甲南医療センターとして新しい一步を踏み出しました。2022 年春には 2 期工事が完工しグランドオープンを迎えました。中でも救急医療はこれまで以上に力を入れ、年間約 7000 台（1 日平均 19 台）の救急車を受け入れています。2023 年 4 月より神戸大学から内科的思考に優れた救急専門医を副部長として迎え入れ常勤医 3 名となり、指導体制もこれまで以上に充実しています。ハード面でもソフト面でも新しくなった当院では是非いっしょに内科専門研修をスタートさせましょう。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 27 名、日本内科学会総合内科専門医 25 名、日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本消化器内視鏡学会専門医 8 名、日本肝臓学会肝臓専門医 8 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、日本呼吸器呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本腎臓学会専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本臨床腫瘍学会腫瘍専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	<p>(病院全体) 外来患者 5,911 名（実数/1 ヶ月平均） 入院患者 1,083 名（実数/1 ヶ月平均） (内科全体) 外来患者 2,150 名（実数/1 ヶ月平均） 入院患者 485 名（実数/1 ヶ月平均）</p>
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の大部分の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療はもちろんですが、内科医にとって必須である地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターーション治療学会研修関連施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本肥満学会肥満症専門病院、日本緩和医療学会認定研修施設、日本血液学会血液研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設）、日本神経学会教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本消化管学会胃腸科指導施設 など

25) 神鋼記念病院

認定基準	・初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です。
------	------------------------

【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 神鋼記念病院常勤医師として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（人事所管室職員担当）があります。 ハラスマント相談員が人事所管室に配置されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 近隣に契約保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログ ラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会指導医は 26 名在籍しています。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催（年 3 回程）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（神鋼記念病院地域連携講演会、東神戸総合内科講演会、東神戸臨床フォーラム、東神戸呼吸器疾患講演会、神鋼循環器セミナー、神鋼糖尿病セミナー、神戸膠原病腎臓カンファレンス、など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、循環器、血液、膠原病、神経、代謝、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 総合医学研究センターを設立し、医学・医療の発展のために臨床医学研究を推進し、高度先進医療の支援や共同研究を行なっています。 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 治験委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（年間 7~8 演題）をしています。
指導責任者	<p>岩橋 正典</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>神鋼記念病院は、神戸の中心地に位置する急性期総合病院であるとともに、地域に根ざした第一線の病院でもあります。このことから臓器別の Subspecialty 領域（総合内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、血液内科、リウマチ膠原病内科、脳神経内科、糖尿病代謝内科、腫瘍内科、救急）に支えられた高度な急性期医療とコモンディジーズが同時に経験できます。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 26 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名、日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、日本肝臓学会専門医 2 名、感染症専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	<p>延べ外来患者 19,659 名（1 ヶ月平均）</p> <p>延べ入院患者 9,178 名（1 ヶ月平均）</p>
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、44 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技 能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医 療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内

(内科系)	視鏡学会気管支鏡専門医認定施設、日本消化器病学会専門医認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本糖尿病学会認定教育施設Ⅱ、日本リウマチ学会教育施設、日本血液学会血液研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、アレルギー専門医教育研修施設、日本神経学会准教育施設、など
-------	--

26) 兵庫中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 国立病院機構任期付き常勤医師として労務環境が保障されます。 メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課）があり、ハラスマント委員会も整備されています。 女性専攻医のための更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用が可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医が 13 名在籍しています。 医師臨床研修管理委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医にも受講を義務付けます。 CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており、専攻医に特定数以上の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、代謝、呼吸器、神経の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会・同地方会や日本神経学会近畿地方会など年間で 2 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	二村 直伸（脳神経内科） 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫中央病院は兵庫県における神経難病の拠点病院であり、連携病院として神経難病の基礎的、専門的医療を経験できます。また、重症心身障害者や結核病棟などもあり、セーフティーネット医療（民間の主体にゆだねた場合には必ずしも実施されないおそれがある医療）を経験できる数少ない病院です。一方、消化器、代謝、呼吸器などの分野でも専門研修が可能で、主に高齢者や障害者を中心とした各種疾患の研修ができます。そのような患者を担当し、様々なコメディカルと協調することによって、医学的な技術のみならず、社会的能力も備わった医師を育成することを目指します。
指導医数 (常勤医)	日本神経学会指導医 8 名、日本認知症学会指導医 2 名、日本糖尿病学会研修指導医 2 名、日本外科学会指導医 2 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名、日本呼吸器外科学会指導医 1 名、日本消化器外科学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医 1 名、日本消化器病学会指導医 1 名、日本結核・非結核性抗酸菌症学会指導医 1 名、日本麻酔科学会麻酔科指導医 1 名、日本消化器病学会専門医 5 名、日本消化器内視鏡学会専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会指導医 1 名、日本大腸肛門病学会専門医 1 名、日本神経学会専門医 11 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 52,857 名 入院患者 145,043 名
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 5 領域、34 疾患群の症例を経験することができます

	ますが、それ以外の分野で経験できる症例も数多くあります。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	主に慢性期医療を経験していただきますが、急性期医療ももちろん経験できます。患者さんを治す以外に患者さんや家族を支えていく医療を経験できます。内科医にとって必須である地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本神経学会認定教育施設、日本認知症学会教育施設、日本消化器病学会認定施設、日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本呼吸器学会認定施設、日本内科学会認定医制度教育関連施設、日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設

27) 神戸大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 医学部附属病院研修中は、医員として労務環境が保障されます。 メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があり、ハラスメント委員会も整備されています。 女性専攻医のための更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、病院職員としての利用が可能ですが（但し、数に制限あることと事前に申請が必要です）。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医が 100 名在籍しています。 内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を職員必須講習として年 2 回開催し、専攻医にも受講を義務付けます。 CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており、専攻医に特定数以上の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で約 25 演題の学会発表をしています。
指導責任者	<p>三枝 淳（腎臓・免疫内科学分野 免疫内科学部門） 【内科専攻医へのメッセージ】 神戸大学医学部附属病院内科系診療科は、連携する関連病院と協力して、内科医の人材育成や地域医療の維持・充実に向けて活動を行っていきます。医療安全を重視し、患者本位の標準的かつ全人的な医療サービスが提供でき、医学の進歩にも貢献できる責任感のある医師を育成することを目指します。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 100 名、日本内科学会総合内科専門医 110 名、日本消化器病学会消化器専門医 72 名、日本肝臓学会肝臓専門医 20 名、日本循環器学会循環器専門医 35 名、日本内分泌学会専門医 22 名、日本糖尿病学会専門医 27 名、日本腎臓病学会専門医 12 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 16 名、日本血液学会血液専門医 19 名、日本神経学会神経内科専門医 22 名、日本アレルギー学会専門医（内科）3 名、日本リウマチ学会専門医 17 名、日本感染症学会専門医 5 名、日

	本救急医学会救急科専門医 16 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 延べ数 12,482 名、実数 2,437 名（内科のみの 1 ヶ月平均） 入院患者 延べ数 7,232 名 実数 586 名（内科のみの 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができますが、大学病院での研修は短期間なので、希望により研修科を選択いただけます。
経験できる技術・技能	技術技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療はもちろんですが、内科医にとって必須である地域に根ざした医療、病診病病連携なども経験できます。大学病院ならではの専門最先端医療も是非経験いただきたいと考えています。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会総合内科専門医認定教育施設、日本臨床検査医学会臨床検査専門医認定病院、日本消化器病学会消化器病専門医認定施設、日本循環器学会循環器専門医研修、日本呼吸器学会呼吸器専門医認定施設、日本血液学会血液専門医研修施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設、日本糖尿病学会糖尿病専門医認定教育施設、日本腎臓学会腎臓専門医研修施設、日本肝臓学会肝臓専門医認定施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設、日本感染症学会感染症専門医研修施設、日本老年医学会老年病専門医認定施設、日本神経学会神経内科専門医教育施設、日本リウマチ学会リウマチ専門医教育施設、日本集中治療医学会集中治療専門医専門医研修施設

28) 千船病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 千船病院常勤医師として、法人の規定に則り労務環境が保障されています。 メンタルストレスおよびハラスメントに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）があります。 女性専攻医も安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 隣接地（徒歩約 1 分）に院内保育所があり、事前手続きにより利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は 11 名在籍しています。 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理するプログラム管理委員会と研修委員会、それをサポートする診療部支援室を設置しています。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催（過去実績 5-8 回/年）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（2021 年度実績 21 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 特別連携施設（日高クリニック）の専門研修では、電話やメール、週 1 回程度の千船病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。 日本専門医機構による施設実地調査に、診療部支援室とプログラム管理委員会で対応します。
認定基準	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代

【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	謝、腎臓、脳神経、呼吸器、感染症および救急で定的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち 35 以上の疾患群が研修可能です。 ・専門研修に必要な剖検（過去実績 5-13 件/年）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会および治験管理委員会を定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を行っています。
指導責任者	尾崎 正憲（内科教育責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 当院のプログラムの目指す内科医像は、総合内科的な力を有するサブスペシャリティ医、病院総合内科医、 <u>内科救急医</u> 、さらに地域医療の第一線で活躍するプライマリ・ケア医を育成することを目標としています。そのため 1 年目ではできるだけ幅広く各内科で研修を行い、2 年目以降にサブスペシャリティ研修を並行して行うことを基本にしていますが、各専攻医の希望を聞いて柔軟に研修を行えるよう配慮しています。また専攻医が早期に技術が習得できるよう、多くの症例の処置や手術が行えるよう配慮しています。さらに学会発表や論文作成の指導を懇切丁寧に行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 9 名、日本消化器病学会消化器病専門医 6 名、日本消化器内視鏡学会専門医 4 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本透析医学会専門医 3 名、日本呼吸器学会専門医 1 名、日本動脈硬化学会認定動脈硬化専門医 1 名、日本病院総合診療医学会認定医 3 名
外来・入院患者数	外来患者 5,123 名（1 ヶ月平均） 入院患者 218 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例の多くを幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本肝臓学会肝臓専門医制度特別連携施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本腎臓学会認定教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本呼吸器学会連携施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本動脈硬化学会専門医教育病院

29) 淀川キリスト教病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。貸与されたタブレット端末を用いて電子ジャーナル検索がいつでもできます。 ・淀川キリスト教病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルス推進課）があります。 ・ハラスマント相談窓口およびハラスマント防止・対応マニュアルが淀川キリスト教病院グループ内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー
--------------------------------	---

	<p>室、当直室が整備されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。また院内で病児保育の利用も可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は 27 名在籍しています（下記）。 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターが設置されています。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催（2024 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（2024 年度実績 8 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 プログラム所属の全専攻医に JMECC 受講（2024 年度開催実績 1 回：受講者 11 名）を義務付けそのための時間的余裕を与えます。 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 専門研修に必要な剖検（2024 年度 8 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に必要な図書室、資料作成室などを整備しています。 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 11 回）しています。 治験審査委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 6 回）しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 11 演題）をしています。
指導責任者	<p>紙森 隆雄</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>内科専門医を目指す方々は専門研修にどのようなイメージを持っておられるでしょうか。</p> <p>内科の基礎をしっかりと学びたい方もいれば、早く subspecialty 領域の力をつけて行きたい方もいるでしょう。将来どの分野に進むにせよこの 3 年間は内科医の土台となる最も大事な時期です。淀川キリスト教病院内科プログラムでは、一人一人の希望も汲みつつ内科医としての実力を養うための専攻スケジュールを提供します。</p> <p>当院は、全人医療を理念とし、幅広い診療科と高度な医療機器を備え、大阪市北部・北摂地域の医療の中心的役割を担っている 581 床の急性期総合病院です。年間 7000 件前後の救急搬送実績があります。11 科からなる内科には、将来希望する subspecialty に充実した指導医やスタッフが在籍しています。これらの総合力を活かした幅広く質の高い研修ができるここと、さらにそれぞれの内科で subspecialty との並行研修ができ、切れ目なく希望する専門内科に進めるというのが当プログラムの特長です。</p> <p>また、地域医療から高度先進医療まで様々なニーズに応えられる多くの病院と連携しています。</p> <p>プログラムでは、内科医に不可欠な知識や技能、態度、問題解決方法に加え、将来の目標に合わせた研修を自ら選択できるよう様々な配慮をしています。質の高い内科専門医を目指す研修医の皆様の参加をぜひお待ちしています。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 27 名、日本内科学会総合内科専門医 34 名、日本消化器病学会消化器専門医 13 名、日本肝臓学会肝臓専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病

	学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、日本血液学会認定血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医 6 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、がん薬物療法専門医 2 名、日本感染症学会 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 14 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 10,673 名（2024 年度平均延数／月） 新入院患者 552 名（2024 年度平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。急性期医療では集中治療室での超重症例の診療も可能です。
学会認定施設 (内科系)	内科専門研修プログラム基幹施設、日本血液学会血液研修施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設、日本神経学会認定教育施設、日本脳卒中学会専門医研修教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本緩和医療学会認定教育施設 など

30) 京都第一赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 京都第一赤十字病院の専攻医（常勤嘱託）として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医・人事課）があります。 ハラスメント相談員（ハラスメント対策委員会）が常勤しています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワーリーム、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医が 40 名在籍しています。 内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し（2022 年度 4 回、2023 年度 4 回、2024 年度 5 回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 基幹施設内に教育研修推進室（人事課内）があり、研修管理委員会と連携して研修の管理をおこないます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。すでにいくつかの地域参加型カンファレンスを実施しており、専攻医にも参加機会を与えます。 CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 JMECC を 1 年に 1 回自院にて開催し、すべての専攻医に 1 回以上の参加を義務付けます。 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を含む、消化器、循環

【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、内科専門研修に求められるほぼすべての領域の疾患群について研修できます。 ・専門医研修に必要な剖検（2020 年度 14 件、2021 年度 7 件、2022 年度 5 件、2023 年度 6 件、2024 年度 8 件）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。 ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（年 6 回）しています。 ・学術集会への参加を奨励し、学術集会参加費・出張費を支給しています。。
指導責任者	副院長 沢田 尚久 【専攻医のみなさんへメッセージ】 当院は昭和 9 年に日本赤十字社京都支部病院として開設され、昭和 18 年に京都第一赤十字病院と改称し現在に至ります。許可病床は 600 余床で、地域医療支援病院・地域がん診療連携拠点病院・京都府基幹災害拠点病院・救命救急センター・DPC 特定病院群・臨床研修病院機能評価(JCEP)などの各種承認・指定を受けています。また、心臓センター・脳卒中センター・腎透析センター・消化器センター・リウマチ膠原病センター・総合周産期母子医療センターなどを擁しており、専攻医の皆さんには経験豊富で高い専門性を持つ指導医から充実した指導を受けることができます。病院の基本方針の一つに「卒前・卒後の研修施設として、次代を担う医療専門職を養成します。」を掲げており、必要かつ十分な研修環境を提供します。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 40 名、日本内科学会総合内科専門医 34 名、日本消化器病学会消化器病専門医 16 名（うち内科指導医 10 名）、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名（うち内科指導医 2 名）、日本循環器学会循環器専門医 11 名（うち内科指導医 11 名）、日本腎臓学会腎臓専門医 4 名（うち内科指導医 2 名）、日本糖尿病学会専門医 3 名（うち内科指導医 3 名）、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名（うち内科指導医 4 名）、日本血液学会血液専門医 7 名（うち内科指導医 6 名）、日本神経学会神経内科専門医 4 名（うち内科指導医 3 名）、日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医 1 名（うち内科指導医 1 名）、日本救急医学会救急専門医 13 名（うち内科指導医 2 名）、日本心血管インターベンション治療学会認定医 4 名（うち専門医 4 名）、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 9 名（うち内科指導医 7 名）、日本透析医学会透析専門医 4 名（うち内科指導医 2 名）、日本脳卒中学会専門医 7 名（うち内科指導医 3 名）、日本脳神経血管内治療学会専門医 7 名（うち内科指導医 3 名）、日本リウマチ学会リウマチ専門医 6 名（うち内科指導医 3 名）など
外来・入院患者数	2024 年度実績より 内科系外来患者 10,067 名(1 ヶ月平均) 内科系入院患者 553 名(1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本糖尿病学会認定教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本血液学会専門研修認定施設、非血縁者間骨髄採取認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日

	本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、補助人工心臓治療関連学会協議会インペラ補助循環用ポンプカテーテル実施施設、日本不整脈神殿学会不整脈専門医研修施設、日本神経学会専門医制度教育施設、日本脳神経血管内治療学会専門医制度研修施設、日本てんかん学会てんかん専門医制度研修施設、日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院、日本呼吸器学会認定施設、日本感染症学会研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本急性血液浄化学会認定指定施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本集中治療医学会専門医研修施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設 など
--	---

(3) 専門研修特別連携施設

1) たつの市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 研修に必要な図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります。 たつの市民病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処できるよう、基幹病院と連携し、必要な情報共有を行います。 女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室・シャワー室・当直室を整備しています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 基幹病院で定期的に行われる医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 基幹施設である赤穂市民病院で行う CPC、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 年に数回実施する地域参加型のカンファレンス（呼吸器研究会、循環器研究会、消化器病研修会）への専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科・消化器・呼吸器及び救急の分野で定常に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	基幹病院と連携し、年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	<p>北村 拓矢(院長補佐) 【内科専攻医へのメッセージ】 たつの市民病院は兵庫県西播磨医療圏のたつの市にある地域の総合病院です。令和 2 年 4 月より地方独立行政法人たつの市民病院機構として運営をスタートしました。「こころある医療を通して地域に貢献する」を理念としています。外来では地域の総合病院として、内科一般および専門外来の充実に努め、健診・ドックの充実にも努めています。医療療養病床としては①急性期後の慢性期・長期療養患者診療、②慢性期患者の在宅医療（自宅・施設）復帰支援を行う一方、③外来からの急性疾患患者の入院治療・在宅復帰、④在宅患者（自院の在宅患者、および連携医療機関の在宅患者）の入院治療・在宅復帰、に力を注いでいます。在宅医療は、医師 2 名による訪問診療と往診を行っています。病棟・外来・訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所との連携のもとに実施していきます。病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない、各医師・各職種および家</p>

	族を含めたカンファレンスを実施し治療の方向性、在宅療養の準備を進め、外来・在宅担当医師・スタッフへとつないでいます。
指導医数 (常勤医)	日本プライマリ・ケア連合学会認定医 1名、日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医 1名、日本内科学会総合内科専門医 4名、日本内科学会認定内科医 1名、日本肝臓学会認定肝臓専門医 1名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 4名、日本消化器病学会専門医制度指導医 2名、日本消化器病学会消化器病専門医 4名、日本消化器内視鏡学会指導医 1名、日本人間ドック学会人間ドック認定医 1名、日本老年医学会認定老年病専門医 1名、日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医 1名、日本専門医機構形成外科専門医 1名、日本医師会認定産業医 2名、日本消化管学会胃腸科専門医 1名、日本専門医機構総合診療専門研修特任指導医 2名、
外来・入院患者数	外来患者 2833 名（1ヶ月平均） 入院患者 104 名（1日平均）（R6年度実績）
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、療養病床であり、かつ地域の総合病院という枠組みのなかで、経験していただきます。 <ul style="list-style-type: none">・健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ・急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価）・複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療・患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方<ul style="list-style-type: none">・嚥下機能評価（嚥下造影・嚥下内視鏡にもとづく）および口腔機能評価（歯科医師によります）による、機能に見合った食事の提供と誤嚥防止への取り組み・褥創についてのチームアプローチ
経験できる地域医療・診療連携	<ul style="list-style-type: none">・急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療・残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整・在宅へ復帰する患者については、地域の総合病院としての外来診療と訪問診療・往診、それを相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と、医療との連携・地域における急病時の診療連携・地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携
学会認定施設 (内科系)	

20 県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会

(令和7年4月現在)

名簿

県立はりま姫路総合医療センター

橋本 尚子(委員長、副プログラム統括責任者、糖尿病・内分泌内科分野責任者)
大内 佐智子(副委員長、プログラム統括責任者)
八幡 晋輔(総合内科分野責任者)
高谷 具史(循環器分野責任者)
上原 敏志(脳神経内科分野責任者)
佐貫 豪(消化器内科分野責任者)
中西 昌平(腎臓内科分野責任者)
吉村 将(呼吸器内科分野責任者)
喜多川 浩一(腫瘍・血液内科分野責任者)
西村 翔(感染症内科分野責任者)
山本 讓(膠原病リウマチ内科分野責任者)
坂下 明大(緩和ケア内科分野責任者)
時田 直人(事務局代表)

連携施設担当委員

公立宍粟総合病院	山城 有機	加古川中央市民病院	西澤 昭彦
赤穂市民病院	大橋 佳隆	北播磨総合医療センター	安友 佳朗
市立西脇病院	宮田 恵吉	明石医療センター	米倉 由利子
県立丹波医療センター	河崎 悟	公立豊岡病院	石田 明彦
市立加西病院	七星 雅一	神戸医療センター	三輪 陽一
姫路中央病院	田畠 昌子	西神戸医療センター	永澤 浩志
綱島会厚生病院	向原 直木	神戸市立医療センター西市民病院	
井野病院	森本 真輔		西尾 智尋
中谷病院	中谷 裕司	甲南医療センター	山田 浩幸
入江病院	入江 聰五郎	神鋼記念病院	旗智 さおり
姫路赤十字病院	筑木 隆雄	兵庫中央病院	二村 直伸
姫路医療センター	和泉 才伸	神戸大学医学部附属病院	川森 裕之
姫路聖マリア病院	松村 正	千船病院	尾崎 正憲
ツカザキ病院	飯田 英隆	淀川キリスト教病院	岩田 幸代
県立加古川医療センター	中村 幸子	京都第一赤十字病院	奥山 祐右
県立淡路医療センター	垂髪 祐樹	たつの市民病院	北村 拓矢

県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム 専攻医研修マニュアル

1 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- ① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- ② 内科系救急医療の専門医
- ③ 病院での総合内科（Generality）の専門医
- ④ 総合内科的視点を持つ Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、兵庫県播磨姫路医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム終了後には、県立はりま姫路総合医療センター内科施設群専門研修施設群（下記）だけでなく、専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する、または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です。

2 専門研修の期間

卒後年	1	2	3	4	5	6
医師国家試験合格	臨床研修		内科専門研修 (並行研修)			内科・総合内科 内科・循環器内科 内科・脳神経内科 内科・糖尿病・内分泌内科 内科・消化器内科 内科・腎臓内科 内科・呼吸器内科 内科・腫瘍・血液内科 内科・膠原病リウマチ内科 内科・感染症内科 内科・緩和ケア内科 内科・救急科
		連携施設での研修	病歴提出	筆記試験		

基幹施設である県立はりま姫路総合医療センター内科で、専門研修（専攻医）1年目、3年目に2年間の専門研修を行います。

3 研修施設群の各施設名

(P. 18 「県立はりま姫路総合医療センター研修施設群」参照)

基幹施設： 県立はりま姫路総合医療センター

連携施設： 公立宍粟総合病院、赤穂市民病院、市立西脇病院、兵庫県立丹波医療センター、市立加西病院、姫路中央病院、綱島会厚生病院、井野病院、中谷病院、入江病院、姫路赤十字病院、国立病院機構姫路医療センター、姫路聖マリア病院、ツカザキ病院、兵庫県立加古川医療センター、兵庫県立淡路医療センター、加古川中央市民病院、北播磨総合医療センター、明石医療センター、公立豊岡病院、神戸医療センター、神戸市立西神戸医療センター、神戸市立医療センター西市民病院、甲南医療センター、神鋼記念病院、兵庫中央病院、神戸大学医学部附属病院、千船病院、淀川キリスト教病院、京都第一赤十字病院

特別連携施設：たつの市民病院

4 プログラムに関わる委員会と委員、および指導医名

県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会と委員名 (P. 64 「県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会」参照)

5 各施設での研修内容と期間

専門研修（専攻医）2年目の研修施設は希望・将来像、研修達成度などを基に、調整し決定します。希望連携施設の選択にあたり、立場や地域における役割の異なる医療機関での研修をより推進する目的で、医療資源が限られている過疎地域の地域基幹病院で地域包括ケア病床を有する赤穂市民病院、市立西脇病院、市立加西病院、公立宍粟総合病院、県立丹波医療センター、および地域医療密着型病院である姫路中央病院、綱島会厚生病院、井野病院、中谷病院、入江病院、たつの市民病院のうち、いずれかの施設で少なくとも0.5年間の研修を選択します。

6 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である県立はりま姫路総合医療センター診療科別診療実績を以下の表に示します。

2024年度実績	入院患者数 (人/年)	外来患者延数 (延人数/年)
総合内科	7,962	6,196
循環器内科	32,505	34,285
脳神経内科	13,026	12,732
糖尿病・内分泌内科	2,366	18,252
消化器内科	20,008	24,246
腎臓内科	5,103	8,678
呼吸器内科	10,435	9,647
腫瘍・血液内科	4,171	8,933
膠原病リウマチ内科	3,385	9,591
感染症内科	58	2,478
緩和ケア内科	5,966	362

- * 1学年15名に対し十分な症例を経験可能です。
- * 総合内科、消化器、循環器、呼吸器、血液、神経内科、老年病、腎臓、肝臓、糖尿病、内分泌代謝科、リウマチ、感染症領域の専門医が少なくとも1名以上在籍しています（P.18「県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修施設群」参照）。
- * 剖検体数は2022年度5体、2023年度7体、2024年度2体です。

7 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

Subspecialty領域に拘泥せず、内科として入院患者を順次主担当医として担当します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

入院患者担当の目安（基幹施設：県立はりま姫路総合医療センターでの一例）

当該月に以下の主たる病態を示す入院患者を主担当医として退院するまで受持ちます。

専攻医1人あたりの受持ち患者数は、受持ち患者の重症度などを加味して、担当指導医、Subspecialty上級医の判断で10名程度を受持ちます。感染症、総合内科分野は、適宜、領域

横断的に受持ちます。

月	専攻医1年目	専攻医2年目	専攻医3年目
4～6		公立宍粟総合病院 赤穂市民病院 市立西脇病院 兵庫県立丹波医療センター 市立加西病院 姫路中央病院 綱島会厚生病院 井野病院 中谷病院 入江病院 姫路赤十字病院 国立病院機構姫路医療センター 姫路聖マリア病院 ツカザキ病院 兵庫県立加古川医療センター 兵庫県立淡路医療センター 加古川中央市民病院 北播磨総合医療センター 明石医療センター 公立豊岡病院 神戸医療センター 神戸市立西神戸医療センター 神戸市立医療センター西市民病院 甲南医療センター 神鋼記念病院 兵庫中央病院 神戸大学医学部附属病院 千船病院 淀川キリスト教病院 京都第一赤十字病院 たつの市民病院	
7～9			
10～12	県立はりま姫路総合医療センター 内科 (うち、総合内科 0.5年)		県立はりま姫路総合医療センター 内科
1～3			

8 自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年8月と2月とに自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行います。必要に応じて臨時に行なうことがあります。

評価終了後、1か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け、その後の改善を期して最善をつくします。2回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医からのフィードバックを受け、さらに改善するように最善をつくします。

9 プログラム修了の基準

① J-OSLERを用いて、以下の i)～vi) の修了要件を満たすこと。

- i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70疾患群を経験し、計200症例以上（外来症例は20症例まで含むことができます）を経験することを目標とする。その研修内容をJ-OSLERに登録する。修了認定には、主担当医として通算で最低56疾患群

以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる）を経験し、登録済みであること（P. 75 別表 1「県立はりま姫路総合医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

- ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されてること。
- iii) 学会発表あるいは論文発表を筆頭者で 2 件以上あること。
- iv) JMECC 受講歴が 1 回あること。
- v) 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があること。
- vi) J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参考し、社会人である医師としての適性があると認められること。

- ② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを県立はりま姫路総合医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し、研修期間修了約 1 か月前に県立はりま姫路総合医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

〈注意〉 「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長することがあります。

10 専門医申請にむけての手順

- ① 必要な書類
 - i) 日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書
 - ii) 履歴書
 - iii) 県立はりま姫路総合医療センター内科専門医研修プログラム修了証（コピー）

② 提出方法

内科専門医資格を申請する年度の 5 月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します。

③ 内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで、日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります。

11 プログラムにおける待遇、ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については、各研修施設での待遇基準に従う（P. 18 県立はりま姫路総合医療センター研修施設群」参照）。

12 プログラムの特色

- ① 本プログラムは、兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な急性期病院である県立はりま姫路総合

医療センターを基幹施設として、兵庫県播磨姫路医療圏、近隣医療圏で内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、地域の実情に合わせて多様な環境下で活躍できるように、実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設1～2年間+連携施設1～2年間の3年間です。

- ② 県立はりま姫路総合医療センター内科施設群専門研修では、症例がある時点で経験することだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- ③ 基幹施設である県立はりま姫路総合医療センターは、兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、救命救急センターを併設していることにより、数多くの救急疾患を経験できます。さらに高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
- ④ 基幹施設である県立はりま姫路総合医療センターでの2年間（専攻医2年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で45疾患群、120症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（以降、J-OSLERと表記）に登録できます。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます。
- ⑤ 県立はりま姫路総合医療センター内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修3年間のうちの1～2年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- ⑥ 基幹施設である県立はりま姫路総合医療センターでの1～2年間と専門研修施設群での1～2年間（専攻医2年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で56疾患群、120症例以上を経験し、J-OSLERに登録できます。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群、200症例以上の経験を目標とします（別表1「県立はりま姫路総合医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

13 繼続した Subspecialty 領域の研修の可否

- ・ カリキュラムの知識、技術・技能を深めるために、総合内科外来（初診を含む）、Subspecialty 診療科外来（初診を含む）、Subspecialty 診療科検査を担当します。結果として、Subspecialty 領域の研修につながることはあります。
- ・ カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty

領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

14 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は毎年 8 月と 2 月とに行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧し、集計結果に基づき、県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

15 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

16 その他

特になし。

県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム 指導医マニュアル

1 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

- ・1人の担当指導医（メンター）に専攻医1人が県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
- ・担当指導医は、専攻医がJ-OSLERにその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認します。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- ・担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。
- ・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳Web版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医はSubspecialtyの上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医とSubspecialtyの上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- ・担当指導医はSubspecialty上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- ・担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2年修了時までに合計29症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行います。

2 専門研修の期間

- ・年次到達目標は、P.75別表1「県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」について」に示すとおりです。
- ・担当指導医は、臨床研修センターと協働して、3か月ごとにJ-OSLERにて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医によるJ-OSLERへの記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・担当指導医は、臨床研修センターと協働して、6か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・担当指導医は、臨床研修センターと協働して、6か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- ・担当指導医は、臨床研修センターと協働して、毎年8月と2月とに自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行います。評価終了後、1か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形成的に指導します。2回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行って、改善を促します。

3 専門研修の期間

- ・担当指導医はSubspecialtyの上級医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLERでの専攻医

による症例登録の評価を行います。

- ・J-OSLER での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。
- ・主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に J-OSLER での当該症例登録の削除、修正などを指導します。

4 J-OSLER の利用方法

- ・専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
- ・担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
- ・専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
- ・専門研修施設群とは別の日本内科学会の病歴要約二次評価査読委員による査読を受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
- ・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と臨床研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
- ・担当指導医は、J-OSLER を用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

5 逆評価と J-OSLER を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて、臨時（毎年 10 月と 3 月に予定する他に）で、J-OSLER を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果を基に県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7 プログラムならびに各施設における指導医の待遇

県立はりま姫路総合医療センター及び各施設の関係規程によります。

8 FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。

指導者研修（FD）の実施記録として、J-OSLER を用います。

9 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を熟読し、形成的に指導します。

10 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

11 その他

特になし。

別表 1

内科専門研修 修了要件(「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」)一覧表

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科I(一般)	計10以上	1	2
	総合内科II(高齢者)		1	
	総合内科III(腫瘍)		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上	2	
剖検症例		1以上	1	
合計		120以上 (外来は最大12)	56 疾患群 (任意選択含む)	29 (外来は最大7)

補足

1. 目標設定と修了要件

以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

	症例	疾患群	病歴要約
目標(研修終了時)	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

2. 疾患群:修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
3. 病歴要約:病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
4. 各領域について
 - ① 総合内科:病歴要約は「総合内科I(一般)」、「総合内科II(高齢者)」、「総合内科III(腫瘍)」の異なる領域から1例ずつ計2例提出する。
 - ② 消化器:疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・脾」が含まれること。
 - ③ 内分泌と代謝:それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
例)「内分泌」2例+「代謝」1例、「内分泌」1例+「代謝」2例
5. 臨床研修時の症例について:例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大60症例を上限とし、病歴要約への適用については最大14症例を上限とする。

別表 2**県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修 週間スケジュール（例）**

	月	火	水	木	金	土	日
午前	チーム C	研修医教育 C チーム C	チーム C	外来症例 C チーム C	チーム C		
	救急当番	外来	サブスペ研修 (内視鏡、心 カテ、エコー 等)		サブスペ研修 (内視鏡、心 カテ、エコー 等)		
午後	チーム C	チーム C	救急当番 チーム C	病棟(多職種)C チーム C	チーム C		
		勉強会		入院症例 C			

★ 県立はりま姫路総合医療センター内科専門研修プログラム 4 専門知識・専門技能の習得計画に従い、内科専門研修を実践します。

- ・上記はあくまでも例：概略です。
- ・内科および各診療科 (Subspecialty) のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
- ・入院患者診療には、内科と各診療科 (Subspecialty) などの入院患者の診療を含みます。
- ・日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科 (Subspecialty) の当番として担当します。
- ・地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各自の開催日に参加します。